

令和元年度協働のまちづくり協議会
審査資料

(令和2年度実施分 協働事業)
(令和2年度実施分 市民活動助成事業)

(HP掲載用)

目 次 (プレゼンテーションの順番に掲載しています。)

■令和2年度 協働事業

事業番号	区分	事業名	提案団体・担当課	ページ	添付資料
1	3年目	災害時要配慮者支援事業	小金原地区会(小金原連合町会)防災部 危機管理課	1	—

■令和2年度 市民活動助成事業

スタート助成					
事業番号	区分	事業名	提案団体	ページ	添付資料
1	2回目	子育てが楽しくなる地域コミュニティ事業	なないろのもり	7	○
2	新規	働くおとなのホッとできる居場所づくり事業	まちなす・Labo	11	○
3	2回目	プレママ教室事業	ぶぶぶママ大学	15	○
4	新規	シニア後期・シルバー世代と愛護動物のサポート事業	宿りのまち	19	—
5	新規	[生きづらさ・ひきこもり]からだとこころに栄養をあたえる場づくり事業	生きづらわーほりプロジェクト	23	—
6	2回目	地域の学び場創出「寺子屋こあら」事業	明地区こあら食堂の会	27	○
7	新規	坂川水系自然環境向上事業	坂川の花桃を愛する会	31	○
8	新規	相続・贈与に関する税務相談・遺言作成相談事業	特定非営利活動法人ライフ・サポート	35	○
9	新規	イベント型＋交流型の居場所「悠々」の提供事業	NPO法人さわやか福祉の会・松戸くらしの助っ人	39	○
10	新規	傾聴ボランティア養成事業	心のふれあい 傾聴ボランティア「かざぐるま」	43	○

ステップアップ助成					
事業番号	区分	事業名	提案団体	ページ	添付資料
11	新規	地元発掘レシピに拠る食育キャラバン事業	数値調理会	47	—
12	2回目	よく生き、よく逝くための基礎知識普及事業	一般社団法人コスモス成年後見サポートセンター千葉 県支部	51	○

スタート助成					
事業番号	区分	事業名	提案団体	ページ	添付資料
13	新規	冒険山開放に伴う見守り事業	冒険山開放委員会	55	○
14	新規	居場所提供と家出女性保護事業	NPO法人振り返らし	59	—
15	新規	歴史ある団体や地域企業と協働による地域発展事業	北小金ドリームプロジェクト	63	○
16	新規	介護予防リーダーの育成と介護予防運動の普及事業	松戸リーダーズクラブ	67	—
17	2回目	野良猫捕獲と不妊手術の悩み解消！地域猫スタート相談会事業	松戸地域猫スタートサポート	71	○

ステップアップ助成					
事業番号	区分	事業名	提案団体	ページ	添付資料
18	新規	ギャンブル依存症予防啓発事業	公益社団法人ギャンブル依存症問題を考える会	75	○

スタート助成					
事業番号	区分	事業名	提案団体	ページ	添付資料
19	新規	みんなで育て、みんなで食べる 沿道での食べられる景観づくり事業	EDIBLE WAY(エディブルウェイ)プロジェクトチーム	79	○
20	新規	生活困窮者の支援事業	ワークライフサポート松戸	83	—
21	2回目	音楽活動による街の活性化事業	松戸音楽活動同好会	87	○
22	新規	アニメ・コスプレ・サブカルチャーで町おこし事業	ひみつきちエンターテイメント	91	○
23	新規	伝統芸能の阿波踊りを通じて、世代間交流を深める事業	惣ノ風連	95	—

ステップアップ助成					
事業番号	区分	事業名	提案団体	ページ	添付資料
24	新規	松戸市における災害支援の文化を創造する事業	特定非営利活動法人ディーブデモクラシー・センター	99	—
25	2回目	笑劇で施設利用高齢者を元気にする事業	浅間台笑劇研究部	103	—
26	新規	外国人の子どものための新教室設立事業	認定NPO法人外国人の子どものための勉強会	107	○

協働事業
事業番号 1

災害時要配慮者支援事業

小金原地区会（小金原連合町会）防災部

危機管理課

事業計画

事業名	災害時要配慮者支援事業
団体名	小金原地区会（小金原連合町会）防災部
事業担当課	危機管理課

事業概要	
<p>災害発生時には、「要配慮者（高齢者、要介護者、障がい者、乳幼児、妊産婦、認知症、外国人など）」に対する支援が重要な課題となる。平時から、「要配慮者支援」に対する啓蒙活動を行い、福祉を考慮した支援体制の構築及び訓練、マニュアル作りを推進する。</p>	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<ol style="list-style-type: none"> ① これまでの災害被災者への支援の視点は医療的観点を中心としていたが、災害福祉という言葉に象徴されるように、要配慮者への支援が求められている。 ② 防災＝福祉への視点が問われているにも関わらず、地域の自主防災活動と福祉との連携が進められていない。 ③ 要配慮者支援の根幹となる福祉避難所の整備が進んでいない。一般の避難所と同様に地域と連携した体制整備が必要である。 ④ 発災後 72 時間の急性期のみならず、中長期的な視野で災害関連死を予防し、要配慮者の支援継続を担保する体制整備を進める必要がある。
事業の目的	<ol style="list-style-type: none"> ① 福祉の時代、介護の時代という大きな地域社会の背景のなか、防災活動における福祉の大切さを確保する。 ② 災害福祉の観点で行政に先行し地域が動くことによって小金原モデルを実現し、松戸市全域に防災活動を広げ、最終的には地域づくりにつながっていくことを目指す。 ③ 要配慮者（高齢者・要介護者・認知症・障がい者・乳幼児・妊婦・外国人・その他明らかに配慮が必要な人）とは災害の発生に伴い支援が必要になるのではなく、平常時において支援の必要な方々である。その意味で、要配慮者への支援を防災という枠を超え限りなく福祉に近づけたい。 1年目（平成30年度）の協働事業では、要配慮者の中でも、高齢者、障がい者に目を向け、2年目（平成31年度／令和元年度）の協働事業では、乳幼児に対する支援に目を向けて来た。 3年目（最終）となる2020年度（令和2年度）では、 <u>(1) 「要配慮者支援マニュアル」（小金原版）に関し、災害発生直後から72時間経過以降（72時間経過すると、外部からの支援が入る）の対応も考慮した集大成版を作成。</u> <u>(2) 福祉を専門としている人材を含めた災害福祉支援チーム（DWA T : Disaster Welfare Assistance Team）の組織化を完成させる。</u>

事業内容

1 事業内容

- ① 「要配慮者支援マニュアル」(小金原版)の集大成版作成
 松戸市医師会災害救護担当・和田忠志医師のアドバイスを受けながら、「小金原要配慮者支援マニュアル」(発災直後から外部の支援が入るまでの72時間を想定)を基に、それ以降での対応を検討し、マニュアルの集大成版を作成する。
 内閣府福祉避難所ワーキンググループ(第2回)の検討内容にある「福祉避難所における支援の際には、対象者の自立を損なわないような支援となるよう留意すべきである。開設期間は原則として1週間、7日以内として、早期に退所を促すような記述を維持することが重要であると考えております。」との指針を受けて作成した「松戸市作成の「福祉避難所開設・運営マニュアル」(平成28年3月)との整合性も考慮するものとする。
- ② 防災フェア開催
- ③ 講演会の開催
- ④ 小金原要配慮者支援会議開催
- ⑤ DWAT(災害福祉支援チーム)の組織化推進。
- ⑥ 福祉専門職の災害現場の実態についての知識・理解の深化。
- ⑦ 外部からの支援を有効に受け入れる「受援力」の強化

2 スケジュール

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月	防災部の執行部体制確認	防災部、部内、市民センター会議室
5月	年間計画作成	防災部、部内、市民センター会議室
6月	マニュアル作成会議①	防災部/危機管理課/(医師会)
8月	マニュアル作成会議②	防災部/危機管理課/(医師会)
9月	「防災フェア」開催	小金原地区住民、小金原体育館
10月	DWAT組織化推進①	防災部/専門職関係団体
10月	マニュアル作成会議③	防災部/危機管理課/(医師会)
11月	「講演会」開催	小金原地区住民、市民センター
11月	小金原要配慮者支援会議①	危機管理課/松戸市役所内関係部署/防災部
12月	マニュアル作成会議④	防災部/危機管理課/(医師会)
1月	DWAT組織化推進②	防災部/専門職関係団体
2月	マニュアル作成会議⑤	防災部/危機管理課/(医師会)
2月	小金原要配慮者支援会議②	危機管理課/松戸市役所内関係部署/防災部
3月	まとめ、マニュアル印刷	防災部/危機管理課

協働の必要性	<p>① 例えば、福祉避難所の立ち上げや運営、医療や福祉の支援が必要な場合、一般の収容避難所のように地域の自主防災活動だけでは対応できず、専門職の人材にいただく必要があり、危機管理課との協調が必要。</p> <p>② 地域住民による防災活動のうちで災害福祉の観点で要配慮者支援を行っている事例はほとんどないが、小金原モデルとして危機管理課との協働事業化を図ることにより松戸全域への普及、促進が展開できる。</p> <p>③ 地域社会において住民による多くのボランティア活動が行われているが、要配慮者の支援のような活動は、福祉という観点からも公共性を担保しての取り組みが必要で行政サイドとの連携、協働が求められる。</p>
事業実施の役割分担	<p>① 団体 ・事業の企画と推進、資料作成、地域との調整</p> <p>② 担当課 ・事業の企画、資料作成、庁内の関係部署との調整</p>
既存の事業からステップアップした部分	<p>・「小金原要配慮者支援マニュアル」(発災直後から外部の支援が入るまでの72時間を想定)を基に、それ以降での対応を検討し、マニュアルの集大成版を作成する。</p> <p>・平時から、「災害弱者」と言われる「要配慮者」への支援を検討しておくことで、「災害時には、誰もが要配慮者になり得る。」という現実にも備え、少しでも減災に結び付けることができれば良いと考える。</p>
事業の目標	<p>① 要配慮者の視点を盛り込んだ「防災フェア」の開催：1回 参加人数：500人(役割担当者含む)以上を目標とする。</p> <p>② 「要配慮者支援」に関係する講演会の開催：1回</p> <p>③ 小金原要配慮者支援会議の開催：2回</p> <p>④ 「小金原要配慮者支援マニュアル」の集大成版を作成し、小金原地区の自治会・町会に配布する。所属18町会に対し、各町会約50部、合計1,000部を印刷。</p> <p>⑤ DWAT(災害福祉支援チーム)の組織化を完成させる。</p>
今後の展望	<p>防災活動は地域の横のつながりをつくるものであり、災害福祉の観点から、高齢者問題、乳幼児対応、障がい者対応などに取り組んでいきたい。</p> <p>又、まちづくり活動、地域の見守り活動が防災活動ともつながっていることを理解し、平時からの「安否確認」など、複眼的な視点で広く防災活動を捉えていきたい。</p> <p>尚、本事業終了後には、松戸市内の他の地区会においても、平時から「要配慮者支援」の体制づくりの重要性を訴求し、町会役員及び防災リーダーを含む「防災対策組織」のメンバーとの意思疎通を図り、「災害時要配慮者支援事業」の成果を展開する。</p>

事業の予算計画

【労力換算（限度額算入）】

（単位：円）

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 460,925	※別紙「労力換算計算書」参照

【収 入】

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 60,000	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (B)	¥ 60,000	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 500,000	
合計額 (D) = (B+C)		¥ 560,000	

【支 出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 50,000	外部講師謝礼 (50,000円×1名)
	使用料	¥ 10,000	会議室使用料
	消耗品費	¥ 120,000	防災啓発グッズ (150円×800個)
	消耗品費	¥ 40,000	事務担当資料作成用インク代、コピー用紙代、事務用品代 (ファイル、クリアホルダー、他)、「防災フェア」で使用の紙コップ代
	通信費	¥ 2,000	郵便代
	印刷製本費	¥ 288,000	講演会のチラシ(40,000円)、防災フェアのチラシ (40,000)、会館用資料印刷費 (30,000円)、要配慮者支援マニュアル(集大成版)印刷費 (1,000部、178,000円)
	食糧費	¥ 50,000	「防災フェア」でのお茶代
	対象経費の合計 (E)		¥ 560,000
(その他経費)			
	その他経費の合計額 (F)	¥ 0	
合計額 (G) = (E+F)		¥ 560,000	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位：円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×895円
	会議・打ち合わせ（10回）	134,250円	5人×3h×10回×895円
	企画準備（6回）	53,700円	5人×2h×6回×895円
	防災フェア前日準備確認	35,800円	20人×2h×1回×895円
	防災フェア活動	179,000円	25人×8h×1回×895円
	講演会（1回）	13,425円	5人×3h×1回×895円
	要配慮者支援マニュアル作成作業	44,750円	5人×2h×5回×895円
			人×h×回×895円
			人×h×回×895円
			人×h×回×895円
			人×h×回×895円
			人×h×回×895円
			人×h×回×895円
			人×h×回×895円
	合 計（A）	460,925円	

市民活動助成

事業番号 1

スタート助成

子育てが楽しくなる地域コミュニティ事業

なないろのもり

事業計画書

事業名	子育てが楽しくなる地域コミュニティ事業
団体名	なないろのもり

事業概要 子育て世代の当事者として、日々の暮らしの中で子育てが楽しい！と感じる環境や幅広い年代の人々と子育て世代の親子が繋がれるコミュニティを形成することによって、孤立することなく安心して子育てができ、子ども達も安心して成長できる地域を目指します。	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<p>2018年も日経 DUAL「共働き子育てしやすい街ランキング」において上位を獲得している松戸市。保育園の新設や幼稚園の預かり保育の助成、放課後学童保育の時間延長、放課後 KIDS ルームの拡大などをみても、支援の充実が進んでいることは明確です。しかし、子育て世代の母は非正規雇用、パート雇用での就労が多数の中で、その恩恵は限定的です。</p> <p>2018年3月の松戸市「子育て世帯生活実態調査」でも、対象の母親の約半数が非正規雇用であり、専業主婦率は約20～30%という結果で、実際子育てしやすい街に住んでいるという実感がある家庭は限られているのが現状と考えます。</p> <p>そして、学童保育に通っていない子どもや高学年で通えない子ども達は、放課後や長期休みは留守番をして過ごしていて、近年は防犯対策などの視点からも、外出させずに自宅で長時間テレビやゲーム、インターネットなどを見て過ごす事を容認せざるを得ない状況が多く、コミュニケーション能力が低下している子ども達が増えています。</p> <p>また、親子で出かけられる場所や子どもたちの体験の機会などを求めている人々が多く、夏休みイベントの来場者は予想を上回り、100人以上の子ども達に加え、親子での来場者や出展者も増加しました。</p> <p>子ども達を中心に幅広い年代の人が活躍でき、地域の人達と繋がれるイベントや居場所の重要性を実感しました。</p>
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が幸せで、子育てが楽しいと感じるまちづくり。 <p>子どもも大人も一緒に楽しい時間を共有できるような、親子で参加できるイベントを開催します。参加型イベントで地域の幅広い年齢層の方々とも交流し、繋がりができることで、地域のネットワークが構築され、みんなで見守る安心して子育てしやすい地域になることを期待します。</p>

<p>事業内容</p>	<p>1 事業内容</p> <p>① 子供が主役の夏まつり、夏のまなび・あそび場の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生ボランティアを積極的に受け入れ、活躍してもらう。 ・親子で楽しめる、異年齢の子ども達の交流の場（未就園児～中高生） ・学び・遊び体験会（パン教室・農業収穫体験など） ・外に出るきっかけ、夏休みの子ども達の居場所づくり（数日間開催） <p>② 親子で楽しいクリスマスフェスティバルの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達や親子で活動している団体のステージパフォーマンス。 ・市民や地元商店の方々で、親子向けの体験型ワークショップや手作り品の販売など多数出店 <p>③ 冬休み学び・遊び体験会（パン教室・お菓子作り、生け花など）</p> <p>④ 子ども登録者制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①～③の情報の先行受信、予約が可能。参加内容の特典あり、長期休み中の居場所（サポセン・公共施設の体育館やホールなどで体を動かしたり、大きな絵を書いたりなどのワークショップを兼ねた広場を学び・遊び体験会の開催に合わせて、数日間開催予定）。 <p>2 スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="443 922 1385 1406"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4-6月</td> <td>企画、広報、準備、スタッフ、ボランティア募集</td> <td>チラシ作成、近隣の学校、保育園、幼稚園など配布</td> </tr> <tr> <td>7-8月</td> <td>① 夏まつり・夏の遊び場開催</td> <td>Lets 体験受け入れ サポセン、近隣施設</td> </tr> <tr> <td>9-11月</td> <td>イベント準備、協賛者の募集、広報</td> <td>チラシ作成、近隣の学校、保育施設など配布</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>② クリスマスフェスティバル開催</td> <td>サポセン</td> </tr> <tr> <td>12-1月</td> <td>③ 冬休み体験会</td> <td>サポセン、公共施設</td> </tr> <tr> <td>1-3月</td> <td>ふりかえり、集計</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4-6月	企画、広報、準備、スタッフ、ボランティア募集	チラシ作成、近隣の学校、保育園、幼稚園など配布	7-8月	① 夏まつり・夏の遊び場開催	Lets 体験受け入れ サポセン、近隣施設	9-11月	イベント準備、協賛者の募集、広報	チラシ作成、近隣の学校、保育施設など配布	12月	② クリスマスフェスティバル開催	サポセン	12-1月	③ 冬休み体験会	サポセン、公共施設	1-3月	ふりかえり、集計	
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など																				
4-6月	企画、広報、準備、スタッフ、ボランティア募集	チラシ作成、近隣の学校、保育園、幼稚園など配布																				
7-8月	① 夏まつり・夏の遊び場開催	Lets 体験受け入れ サポセン、近隣施設																				
9-11月	イベント準備、協賛者の募集、広報	チラシ作成、近隣の学校、保育施設など配布																				
12月	② クリスマスフェスティバル開催	サポセン																				
12-1月	③ 冬休み体験会	サポセン、公共施設																				
1-3月	ふりかえり、集計																					
<p>事業の目標</p>	<p>① 夏まつり・学び・遊びの場の来場者は延べ130人を目標とする。</p> <p>② クリスマスフェスティバルの来場者は700人を目標とする。</p> <p>③ 冬休み体験会の参加者は30人を目標とする。</p> <p>④ 登録者は10人を目標とする。</p>																					
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登録・協賛者を募り安定したコミュニティを形成する。 ・おもに長期休み中、子ども達が日常的に安心して集える場所をつくる。 <p>5年目を迎えるクリスマスイベントは毎年500名以上の来場者を迎え続けています。このイベントを継続させ、長期休みのイベントを増やし、定期的に関係し様々な方々に携わってもらうことで、子育て世代を中心に赤ちゃんから高齢者まで幅広い世代の方々が関わり合いをもち、みんなで地域の子供達を見守り育てる環境作りを実現していきます。なないろのもりを幅広く認知してもらうことで、保護者が安心して子ども達を送り出せ、また一緒に楽しい時間を過ごしてもらえるような場所にします。</p>																					

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

区分	科目	予算額	積算内訳
団体	事業収入	¥ 10,000	登録料 1000円×10名 (保険料含む)
		¥ 62,000	Xmasイベント協賛金 2000円×16 3000円×10 1口2000円 1口3000円
		¥ 3,500	夏まつりイベント協賛金 ブース500円×7
		¥ 24,000	夏まつり参加料300円×80人
		¥ 18,000	夏のあそび場300円×10人 6日間
		自己資金の合計額 (A)	¥ 117,500
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 217,500	

【支出】

区分	科目	予算額	積算内訳	
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 58,000	体験会講師謝礼 8000円×4 夏休み保育スタッフ3000円×6 Xmasイベント保育スタッフ4000円×2	
	委託料	¥ 18,000	Xmasイベント装飾制作費 3000円 イベントチラシデザイン制作費 5000円×3回	
	消耗品費	¥ 35,900	イベント消耗品3100円 (ガムテープ養生テープ他) プリンターインクセット 8000×2 夏まつり・Xmas装飾6000円 カラー用紙110円×10 ゆびえのぐ8000 横造紙1200円コピー用紙500円	
	印刷製本費	¥ 25,000	イベントチラシ 4000枚 なないろのもりフライヤー3000枚	
	使用料及賃借料	¥ 38,600	夏まつり・夏のあそび場 大会議室他23640円 XmasFestival打合せ・前日準備・当日 多目的ホール他14960円	
	保険料	¥ 28,000	イベント保険 全イベント 延べ1000人×28円	
	食糧費	¥ 3,000	体験会イベント参加者 水 100円×30人	
		対象経費の合計 (D)	¥ 206,500	
(その他経費 対象外)	食糧費	¥ 6,000	Xmasイベント会員昼食代 500円×10人 水100円×10人	
	交通費	¥ 5,000	会員の交通費 500円×10人	
	その他経費の合計額 (E)	¥ 11,000		
合計額 (F) = (D+E)		¥ 217,500		

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成

事業番号 2

スタート助成

働くおとなのホッとできる居場所づくり事業

まちなす・L a b o

事業計画書

事業名	働くおとなのホッとできる居場所づくり事業
団体名	まちなす・Labo

事業概要 ストレス社会で頑張っている大人を対象に、看護師と気軽にココロと体の健康相談ができ、まちの中で「保健室」としての機能を持つ、癒しと安心が得られる居場所を提供。看護の力を活かし、地域に密着した形でコミュニティ作りをしながら、健康に関する情報発信、イベントを実施する。								
取り組もうとする松戸市のテーマ(課題)	高齢化、疾病構造の変化、医療の高度化により「治す医療」からより暮らしの質を重視した「治し・支える医療」へ転換してきており、この土台となるのは地域であり、「いつまでも元気でいられるための暮らし作り」「病気の予防」を実践していくことが今後の課題となってきている。松戸市では次のような状況が課題としてある。 ①主要死因の約60%以上が生活習慣病、自殺2.7%である。 ②特定健康審査における40歳代のメタボリックシンドロームの該当者および予備群は、男性:約40%、女性:約13.8%となっている。 ③平成24年～28年までの自殺者数は450人で、年代別にみると40～49歳が99人と最も多く、男性では40～49歳が72人と最も多い。 ④年代別死亡原因は、自殺は20～39歳で第1位、20歳未満、40歳代で第2位となっており、若年代や働き盛りの世代で主要死亡原因となっている。 ⑤自殺死亡率は特に男性の同居人「なし」で高くなり、自殺者数を職業別にみると「勤めている人」が最も多い。また、原因は「健康問題」が209人と最も多く、内訳として「うつ病」が42.8%、「身体の病気」34.5%となっている。 ※①～③:松戸市健康増進計画 健康松戸21スリー 第2章 市の現状と課題 ④～⑤:2019年4月松戸市自殺対策計画より(平成24～28年のデータ)							
事業の目的	学校に「保健室」があるように、まちの中に「働くおとな」の「保健室」を開設。看護師が継続的に担当することで、気軽に健康についての悩み相談ができ、癒しと安心を提供し、ココロや体がリセットできるような憩いの場を作り、病気の予防を促進し、メンタルヘルス不調者の軽減を目指す。またイベントなどを通して、健康・セルフケアについて学び、考える場を作ることで、自分ができる健康へのアプローチ方法を自分で選択し、健康意識を向上していくことを目的とする。さらにコミュニティができることで、地域交流を深めていきたい。							
事業内容	1 事業内容 ①出張型「働くおとなの保健室」の実施(月1～2回) ・看護師が健康などについての悩みごとへの相談対応を実施 ・ゆっくり休息がとれるような癒しの空間作りの提供 ・ハンドマッサージのサービス提供(希望者) ②健康に関するイベントの企画及び実施(年3回) ③関係機関との連携や医療や介護情報の提供(必要時適宜) 2. スケジュール							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など				
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など						

	4月	①保健室の実施 ②イベントの周知・準備	①構成員 ②チラシ作成、配布、SNS 発信
	5月	①保健室の実施	①構成員
	6月	①保健室の実施 ②イベントの実施	①構成員 ②チラシ作成、イベント関係者
	7月	①保健室の実施 ②イベントの周知・準備	①構成員 ②チラシ作成、配布、SNS 発信
	8月	①保健室の実施	①構成員
	9月	①保健室の実施 ②イベントの実施	①構成員 ②チラシ作成、イベント関係者
	10月	①保健室の実施 ②イベントの周知・準備	①構成員 ②チラシ作成、配布、SNS 発信
	11月	①保健室の実施	①構成員
	12月	①保健室の実施 ②イベントの実施	①構成員 ②構成員、イベント関係者
	1月	①保健室の実施	①構成員
	2月	①保健室の実施	①構成員
	3月	①保健室の実施 ②振り返り、集計	①構成員 ②今年度のイベントの予定を立案
	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室の利用は、時間内は出入り自由。1人1回 500円～1000円(場所および内容により変動)、ワンドリンク(+おやつ)付き。 ・時間は、17:00～20:00を予定 ・ハンドマッサージ(オプション)10分 500円 ・場所は、駅から比較的近く、仕事帰りにでも立ち寄りやすい場所を探す。 日常からちょっと離れホッと一息つける時間の提供と相談しやすい環境をテーマとするため、会議室のような場所でないところを検討。 ・イベントは健康をテーマにした内容で、定期的にかつ継続的に開催していく。 		
既存の事業からステップアップする部分			
事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ①利用人数延べ 100人を目指す ②保健室の開催場所を3か所に増やす。 ③賛同していただける協力員(看護師を含む)を3人増やす。 		
今後の展望	<p>認知度を上げ、利用者を増やし、継続的で安定した事業を実施することで、地域住民の健康相談に対するハードルが上がることなく、気軽に相談ができ、安心と癒しをもってココロと体をリセットできる憩いの場作りを実現したい。また、健康・セルフケアについて学びや考える場づくりを多数実現することで、健康な体づくりに近づきたい。そして、地域ニーズに合わせ、多世代が利用できる保健室の出張場所を増やし、看護師が活動できる場を増やすことで、潜在看護師を確保し、優れた戦力として活用し、地域貢献していくことを目指していく。</p>		

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

区分	科目	予算額	積算内訳
団体	事業収入	¥ 105,000	保備室1000円×50人、 500円×50人 アロマハンドマッサージ 500円×60人
	イベント・講座参加料	¥ 25,000	1000円×10人分×2回分 500円×10人分×1回分
	自己資金の合計額 (A)	¥ 130,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
	合計額 (C) = (A+B)	¥ 230,000	

【支出】

区分	科目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 30,000	外部講師謝礼 (イベント) 10,000円×3回
	印刷製本費	¥ 27,000	チラシ印刷 パンフレット印刷 講座分：4円×1000枚×3回分 保備室：3円×5000部
	消耗品費	¥ 12,500	紙皿・おしぼり・紙ナフ キン・紙コップ他 50円×50人分=2500円 ハンドマッサージ材料 (オイル・エッ センス他) 10000円
		¥ 4,800	文房具 (ボールペン・カ ラーマーカー他) 衛生材料 (ティッシュペーパー、ハン ドタオル、絆創膏、ガーゼ他)
		¥ 15,300	テーブルクロス用生地 500円/m×3m プリンター用インク 8800円 コピー用紙 5,000円
		¥ 8,050	イベント消耗品 (ガムテープ他) 湯沸かしポット 4200円
	食糧費	¥ 21,500	ドリンク・お茶菓子 370円×50人 ハンドマッサージ用お茶代など 60円×50人
	使用料	¥ 87,900	会場使用料 2000円×2.5時間×3回 (イベント) 2000円×3時間×10回 500円×2.5時間×6回 300円×18回
	賃借料	¥ 12,000	プロジェクターレンタル 料 4000円×3回
	通信費	¥ 750	郵便 (定形外) 250円×3回 (講師宛)
		対象経費の合計 (D)	¥ 219,800
その他経費 (対象外)	交通費	¥ 10,200	会員の交通費 300円×34
	その他経費の合計額 (E)	¥ 10,200	
	合計額 (F) = (D+E)	¥ 230,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 額の90%以内、自己資金 (A) 額が対象経費 (D) 額の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成

事業番号 3

スタート助成

プレママ教室事業

ふふふママ

事業計画書

事業名	プレママ教室事業
団体名	ぶぶぶママ大学

事業概要

妊婦さんが産後に孤立で悩むことの無いように、行政や民間のサービスや育児の相談が出来る窓口や産後落ち着いてから親子で遊びに出掛けられる『おやこDE広場』等の紹介をプレママ教室で行う。

産後すぐに役立つ育児の方法を専門家や先輩ママからお話しをしてもらい、むくみ予防や体力作りや食事の工夫やリラックス方法などをとり入れたプレママ教室を行う。

取り組みとす る松戸市のテー マ（課題）

2015年～2016年の2年間に死亡した妊産婦の死亡原因を、国立成育医療研究センターの研究チームが2018年9月に発表した中で、妊産婦死亡の全体の3割が自殺という調査結果となり、自殺の要因として、経済的な困窮や高齢出産、産後うつなどの心の問題の関わりについて指摘しています。

松戸市は2017年日経DUAL共働き子育てしやすい街ランキングにおいて、全国1位となりました。

松戸市は親子すこやかセンターが置かれ、妊娠・出産・子育てまで切れ目のない支援が行われています。全国トップレベルの子育て支援を市民は実感できているのでしょうか。様々なサービスやサポートを利用できるように妊婦さんに届けることで深く悩まないですむと思います。

おなかに赤ちゃんを授かったママが赤ちゃんとの絆を深めながら、楽しく元気に妊娠期間を過ごせるような活動と、松戸市や民間の様々な支援やサポートの情報を妊婦さんに伝えるパイパスとなり、妊婦さんの不安を軽減し、より良い産後を迎える支援ができたかと考えています。

事業の目的

①松戸市で配布している母子手帳、松戸市子育てガイドブック、まつどDE子育て、松戸やさしい暮らしガイド、まつどっ子未来のために今、の冊子やパンフレットの内容を紹介し、新生児期から乳児期の子育てで大事なことを知る。困った時に相談できる窓口の情報を伝え孤立を防ぐ。

②プレママ同士の交流を兼ねた活動をし、知り合う場とする。

③出産に向け、安産の為にマタニティヨガから『リラックスした心』、『柔軟な体』、『心身のバランスのとれた生活』の準備をする。

④専門家のお話しや、先輩ママ、先輩パパの経験談から産後の子育てのイメージを知り、育児の心の準備をする。

⑤ママが胎児の発達を知ること、おなかの赤ちゃんを身近に感じ、胎児のうちから睡眠や生活リズムを整える大切さを知り、赤ちゃんを感じるママの思いが愛着形成の芽生えとなり、妊娠期間が明るく楽しく過ごせるようにする。

などの育児の情報を得て、出産育児に対する不安の軽減や子どもとのコミュニケーションの取り方を知り、愛着形成を深め『自分が大好き』と思える子どもに育てる支援をする。

<p>事業内容</p>	<p>1 事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2ヶ月間で4回のプレママ教室を1セットとして実施する。(1回を2時間とする) ・5～6月、8～9月、2～3月、年に3期実施予定 ・4つのメニューの講座のプレママ教室を実施する。 ・メニューの内容 <p>①母乳育児勉強会・先輩ママの経験談・手作り抱っこ紐・妊婦さんに絵本の読み語り(予定)</p> <p>②赤ちゃんの発達と愛着形成を学ぶ会・先輩ママの経験談・子守唄色々を聴いてみよう・妊婦さんに絵本の読み語り(予定)</p> <p>③マタニティヨガで身体作りの会・わらべ唄胎教マッサージ・先輩パパの経験談・妊婦さんに絵本の読み語り(予定)</p> <p>④日本伝統文化を学ぶ会・先輩パパの経験談・妊婦さんに絵本の読み語り(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回アンケートを実施する。 <p>2 スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="453 916 1404 1317"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月</td> <td>第1期の準備</td> <td>・広報まつど ・まつ育ライン ・ポスター、チラシを公共施設へ配架</td> </tr> <tr> <td>5～6月</td> <td>第1期プレママ教室施設</td> <td>新松戸市民センター(予定)</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>第2期の準備</td> <td>4月と同じ</td> </tr> <tr> <td>8～9月</td> <td>第2期プレママ教室実施</td> <td>新松戸市民センター</td> </tr> <tr> <td>10～1月</td> <td>第3期の準備</td> <td>4月と同じ</td> </tr> <tr> <td>2～3月</td> <td>第3期プレママ教室実施</td> <td>新松戸市民センター(予定)</td> </tr> </tbody> </table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4月	第1期の準備	・広報まつど ・まつ育ライン ・ポスター、チラシを公共施設へ配架	5～6月	第1期プレママ教室施設	新松戸市民センター(予定)	7月	第2期の準備	4月と同じ	8～9月	第2期プレママ教室実施	新松戸市民センター	10～1月	第3期の準備	4月と同じ	2～3月	第3期プレママ教室実施	新松戸市民センター(予定)
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など																				
4月	第1期の準備	・広報まつど ・まつ育ライン ・ポスター、チラシを公共施設へ配架																				
5～6月	第1期プレママ教室施設	新松戸市民センター(予定)																				
7月	第2期の準備	4月と同じ																				
8～9月	第2期プレママ教室実施	新松戸市民センター																				
10～1月	第3期の準備	4月と同じ																				
2～3月	第3期プレママ教室実施	新松戸市民センター(予定)																				
<p>既存の事業からステップアップする部分</p>																						
<p>事業の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講座参加人数 1回を10人以上 ・アンケートを毎回とり、妊婦さんの心配事や不安に思っていることを拾い上げ、解消に向かうよう配慮する。 ・地域の方、松戸市のファミリーサポートの方、松戸市で乳幼児の活動をしている方、保育学生、看護学生、産後ドゥーラ、産院や小児科関係者に活動を周知し、会員協力者を募ります。(30人以上) 																					
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『ぶぶぶパパ大学』を開き、産後の身体にやさしい食事作りの講座やママがしてもらいたいサポートの講座を開く。 ・産後の会を継続して2ヶ月に1回開催し、わらべ唄ベビーマッサージの会をする。 ・産後のママたちが、今度は先輩ママとしてプレママ教室に話をしにきてもらう。 ・産褥期のサポートができる養成講座を開き、サポートの手を増やし、行き届くサポートにつなげていきたい。 																					

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	事業収入	¥ 60,000	500円(参加料)×10人×4回×3期
	団体拠出金	¥ 17,800	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額(A)	¥ 77,800	
市	市民活動助成金(B)	¥ 100,000	
合計額(C) = (A+B)		¥ 177,800	

【支出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 90,000	外部講師謝礼 10,000円×9回
	消耗品費	¥ 15,600	紙 ポスター用5円×1000部×3回 配布物用2円×100部×3回
	消耗品費	¥ 14,000	プリンタインク、糊・折り紙・テープ・等
	食糧費	¥ 600	講師水 100円×6回
	印刷製本費	¥ 15,000	ポスターの印刷代 5円×1000部×3回
	印刷製本費	¥ 4,200	受講者用配布物の印刷代 10円×10部×12回 10枚綴り10円×10枚×10部×3回
	印刷製本費	¥ 18,000	会の概要リーフレット作成 900部
	会場費	¥ 9,600	市民センターなど
	保険料	¥ 10,800	80円×120人
対象経費の合計(D)		¥ 177,800	
(その他経費)			
	その他経費の合計額(E)	¥ 0	
合計額(F) = (D+E)		¥ 177,800	

【チェック項目】

- 1 助成金(B)が対象となる経費(D)額の90%以内、自己資金(A)額が対象経費(D)額の10%以上であること。
- 2 助成金(B)が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成

事業番号 4

スタート助成

シニア後期・シルバー世代と愛護動物のサポート事業

宿りのまち

事業計画書

事業名	シニア後期・シルバー世代と愛護動物のサポート事業
団体名	宿りのまち

事業概要		
松戸市にお住いのペットを飼っているシニア後期・シルバー世代へ向けてのペットのケアと飼い主様への相談・サポートを実施する。		
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<p>近年、シニア後期・シルバー世帯でのペット飼育が増えています。家族の一員として長年一緒に過ごしてきたペットと離れ入院や施設に入居せざるを得ない状況になっている方々が松戸市でも増えております。その為、次の様な問題が増えております。</p> <p>① 入院・施設への入居を拒み家族への大きな負担もしくは動くことが出来ない為または孤独死によるペットのお世話が出来ない為に劣悪な環境による地域環境の悪化。</p> <p>② ペットの遺棄（法の改正により1年以下の懲役100万以下の罰金） これによる未避妊・未去勢手術だった為の繁殖による地域環境の悪化。</p> <p>③ 飼い主によるペットの安楽死（殺傷） （法の改正により5年以下の懲役500万以下の罰金）</p> <p>④ ペット飼養環境適正の増加によるペットの長寿によるペット介護問題。</p>	
事業の目的	<p>令和元年6月に改正・動物愛護管理法が公布されました。これをきっかけに、松戸市内にお住いのペットを飼っているシニア後期・シルバー世代に愛護動物の適正飼養を知ってもらい、将来の不安を解消する為のサポートを行う。サポートを行うことにより安心して健康で文化的な生活を送れる命にやさしい環境・地域作りを目的とする。</p>	
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>(1) シルバー・シニア世代の人とペットの将来の不安を解消するための勉強会(相談会)の開催の実施(月1回)</p> <p>(2) シルバー・シニア世代の人とペットの将来の不安を解消するための近未来不安解消計画作成サポート(随時)</p> <p>(3) (1)・(2)の周知活動(公共施設へのチラシの設置協力予定・広報まつどへの掲載予定・高齢者いきいき安心センター周知協力予定・SNSの利用)</p> <p>2 スケジュール</p>	
	実施月	具体的な取り組み
	実施体制、対象、場所など	
毎月	(1) シルバー・シニア世代の人とペットの将来の不安を解消するための勉強会(相談会)開催(月1回)を行う。	<p>実施体制：構成員</p> <p>会場：松戸市内 地域包括支援センター 担当 15 設置地区</p>
	(3)の周知活動実施。	周知対象：松戸市市全域

	随時	(2)シルバー・シニア世代の人とペットの将来の不安を解消するための近未来不安解消計画作成サポートの実施(随時)を行う。	個別対応
		(3)の周知活動実施。	周知対象：松戸市内全域
<p>既存の事業からステップアップする部分 (ステップアップ助成のみ)</p>	/		
<p>事業の目標</p>	<p>① 松戸市のテーマ①～④の防止とシニア後期・シルバー世代とペットにとって命にやさしい環境作り。 【月1回の勉強会(相談会)参加人数10人 ×12回】</p> <p>② 勉強会(相談会)での開催地での交流とアンケートの実施を行い、高評価数値80%以上を目標とする。 【ペットを通しての地域交流】</p> <p>③ サポート件数：相談会参加人数の10%以上の目標。</p>		
<p>今後の展望</p>	<p>将来の展望として下記が望める。</p> <p>① 松戸市のテーマ①～④の防止に繋がり、人・動物・社会にとって安心して暮らせる健康で文化的な命にやさしい環境作りがめざせる。</p> <p>② 愛護動物の命にやさしい環境を考えると60歳以上の方の譲渡・飼養をお断りする愛護団体が多い。この活動をすることにより愛護団体の条件のハードルが下がることにより高齢者への生きがいを与える事につながる。(年齢を限定しない飼養)</p>		

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 11,200	事情費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 11,200	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 111,200	

【支出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 20,000	外部講師の謝礼 10,000円×2人
	印刷製本費	¥ 25,000	パンフレット印刷 50円×200部 チラシ 5円×2000枚 ポスター印刷 50円×100枚
	消耗品費	¥ 14,600	プリンターのカラーインク 6200円×2セット 印刷用紙 5円×440枚
	食糧費	¥ 24,000	参加者200円×10人×12回
	使用料及び賃借料	¥ 24,000	会場使用料 500円×4時間×12回
	通信費	¥ 3,600	郵便(定形内) 84円×40通(情報案内個人宛用) 郵便(定形外) 120円×2通(講師宛)
	対象経費の合計 (D)		¥ 111,200
(その他経費)			
	その他経費の合計額 (E)	¥ 0	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 111,200	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成

事業番号 5

スタート助成

[生きづらさ・ひきこもり]

からだとところに栄養をあたえる場づくり事業

生きづらわーほりプロジェクト

事業計画書

事業名	[生きづらさ・ひきこもり] からだとこころに栄養をあたえる場づくり事業
団体名	生きづらわーほりプロジェクト
事業概要	
<p>ひきこもり当事者・経験者に向けて、みんなでランチを作り、一緒に食べながら楽しく会話して過ごす場をつくる。からだとこころに栄養を与え、社会につながっていくためのエネルギーが得られるようにする。</p>	
<p>取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）</p>	<p>社会的な孤立や無縁社会、貧困といった社会課題が提起されている中、生きづらさを抱えひきこもり状態に陥ってしまった人達は、人口の1~1.5%程度いるとも言われ、非常に多く存在していることが明らかとなってきた。松戸市内でもひきこもりに関する講演会に100名を超す参加者が集まるなど、多くのひきこもり当事者が暮らしているものと考えられる。</p> <p>昨今、ひきこもりに関する報道などで社会的な関心も高まってきており、課題解決に向けてNPO等が活躍している場面も多く見られるようになってきた。松戸市においてもひきこもりや生活に困難を抱えている方を支援している団体からなる「ひきこもり応援ネット」というネットワークが作られ、ひきこもり支援の動きが広がりを見せ始めている。</p> <p>ところがそのような状況の中で、いざひきこもり当事者が社会に出ていこうとした時に、松戸市内には出ていくような場所がほとんどないという実情がある。なかなか一歩を踏み出すことができなかつた当事者に向けて「安心して過ごせる場・話せる場」を提供することにより、社会とのつながりを作る端緒となる仕組みが必要となっている。</p>
<p>事業の目的</p>	<p>ひきこもり当事者にとって、外に出て社会とつながるには非常に大きなエネルギーが必要となる。当事者はあまり健康的とは言えない生活をしていることも多いことから、しっかりと食事をしてからだに栄養を摂るとともに、会話をしながら楽しく食事の時間を過ごすことでこころにも栄養を与え、社会につながっていくためのエネルギーが得られるようにする。</p>
<p>事業内容</p>	<p>1 事業内容</p> <p>①生きづら Cooking-Meeting 「つたわり」</p> <p>ひきこもり当事者・経験者が集って、みんなでランチを作り、一緒に食べながら楽しく会話をして過ごす場づくりを行う。いろいろな当事者が参加しやすくなるよう、女性の当事者限定の「女子会版」、20歳前後から30歳程度までの年齢層をターゲットとした「若人版」、特に制限のない「通常版」の3つのバージョンで開催する。また、松戸地域だけでなく、一部、新松戸地域でも開催することで、より広範囲で参加しやすいようにする。</p> <p>②ハート to ハートまつど懇談会</p> <p>ひきこもり当事者・経験者、家族、支援関係者、その他ひきこもりに興味・関心のある方が集まる対話交流イベントを開催する。当プロジェクトの活動内容やひきこもり経験者の事例の共有を通して、参加者と一緒にひきこもりについて考え、改善につながるアイデアをシェアすることで、人と人とのつながりをさらに広げていけるようにする。</p>

2 スケジュール		
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4	①「つたわり」通常版	①運営スタッフ3名、まつど市民活動サポートセンター 調理室
5	①「つたわり」女子会版	①運営スタッフ3名、まつど市民活動サポートセンター 調理室
6	①「つたわり」若人版 ②「ハート to ハートまつど懇談会」	①運営スタッフ3名、まつど市民活動サポートセンター 調理室 ②運営スタッフ5名、まつど市民活動サポートセンター 大会議室
7	①「つたわり」通常版	①運営スタッフ3名、まつど市民活動サポートセンター 調理室
8	①「つたわり」女子会版	①運営スタッフ3名、新松戸市民センター 料理教室
9	①「つたわり」若人版	①運営スタッフ3名、まつど市民活動サポートセンター 調理室
10	①「つたわり」通常版	①運営スタッフ3名、新松戸市民センター 料理教室
11	①「つたわり」女子会版	①運営スタッフ3名、まつど市民活動サポートセンター 調理室
12	①「つたわり」若人版	①運営スタッフ3名、新松戸市民センター 料理教室
1	①「つたわり」通常版	①運営スタッフ3名、まつど市民活動サポートセンター 調理室
2	①「つたわり」女子会版	①運営スタッフ3名、まつど市民活動サポートセンター 調理室
3	①「つたわり」若人版	①運営スタッフ3名、まつど市民活動サポートセンター 調理室
既存の事業からステップアップする部分	(スタート助成への応募のため省略)	
事業の目標	<p>①社会につながろうとするひきこもり当事者・経験者が増える。 【「つたわり」参加人数 60人(各回平均5人)】</p> <p>②ひきこもりに関心を持つ人同士の交流が図られアイデアがシェアされる。 【「ハート to ハートまつど懇談会」参加人数 20人】</p>	
今後の展望	<p>社会につながっていくためのエネルギーを得られたひきこもり当事者に対するサポートの仕組みを構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり以外のいろいろな分野で活動している地域の市民団体・NPOとのつながりを作る。それら団体と当事者との間の橋渡しを行い、両者の関係性を円滑に作れるようサポートする。 ・(人手不足となっている)地域の中小企業等との繋がり、援農、他地域への暮らし体験(わーほり体験)など就労につながる仕組みづくりを行う。 	

事業の予算概要

【収入】

(単位: 円)

区分	科目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 16,281	事業費の一部を団体の会計より拠出
	「つたわり」参加費	¥ 18,000	300円×5人×12回
	「ハートtoハートまつど懇談会」参加費	¥ 6,000	300円×20人×1回
	自己資金の合計額 (A)	¥ 40,281	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 140,281	

【支出】

区分	科目	予算額	積算内訳	
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 10,000	外部講師謝礼 (ハートtoハートまつど懇談会) 10,000円×1回	
	消耗品費	¥ 1,400	合ふきん (つたわり) 300円×3箱 洗剤、スポンジ (つたわり) 500円	
	食糧費	¥ 59,100	食材、飲み物 (つたわり) 600円×8人×12回 参加者用お茶菓子 (ハートtoハートまつど懇談会) 1,500円×1回	
	印刷製本費	¥ 10,241	チラシ印刷 (つたわり 片面4色 200部) 1,905円×3回 チラシ印刷 (ハートtoハートまつど懇談会 両面4色 200部) 2,526円×1回	
	使用料			当日配布資料コピー (ハートtoハートまつど懇談会) 10円×10枚×20人×1回
			¥ 32,840	会場使用料 (まつど市民活動サポートセンター 調理室) 380円×5時間×9回 会場使用料 (新松戸市民センター 料理教室) 880円×5時間×3回
				会場使用料 (まつど市民活動サポートセンター 大会議室) 660円×4時間×1回
対象経費の合計 (D)		¥ 113,681		
(その他経費)	交通費	¥ 26,600	運営メンバーの交通費 (つたわり) 600円×3人×12回 運営メンバーの交通費 (ハートtoハートまつど懇談会) 1000円×5人×1回	
	その他経費の合計額 (E)	¥ 26,600		
合計額 (F) = (D+E)		¥ 140,281		

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成

事業番号 6

スタート助成

地域の学び場創出「寺子屋こあら」事業

明地区こあら食堂の会

事業計画書

事業名	地域の学び場創出「寺子屋こあら」事業
団体名	明地区こあら食堂の会

事業概要 子どもの学力格差問題、学校の勉強についていけない子ども、勉強が嫌いな子どもたちを対象とした「寺子屋こあら」を開催。子どもの能力、意欲にあった個別学習サポートを行うことで、子どもの学習意欲を醸成し、将来の可能性を広げます。	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	子どもの貧困と同時に子どもの学力格差も深刻な問題となっている。 こあら食堂が活動をしている地域でも、親の所得が高い子どもに比べ、貧困層の子ども、一人親の子ども、外国人の子どもは、不登校になりがちであったり、学校の勉強についていけない子が多い。また、子どもに学習意欲はあっても家庭環境によっては塾、習い事をする事が出来ない子どももいる。これらの子どもたちの受け皿となるような場所作りが必要である。
事業の目的	学校の勉強についていけない子ども、学習意欲はあるが家庭環境等が原因で塾等に通うことのできない子ども、学校が嫌いな子どもたちに学校以外で勉強できる環境を作ること。 そして、勉強嫌い、苦手な子どもには、学ぶことの楽しさを知ってもらい、学習意欲を持ってもらい、塾等に通えない子どもには個々の学習意欲、能力に見合った内容の学習を提供することで、子どもの将来の可能性を広げられるようにすること。
事業内容	1 事業内容 ◆寺子屋こあらを開催 <ul style="list-style-type: none"> ・毎月こあら食堂の開催に合わせて寺子屋こあらを開催する。 ・食堂の隣部屋を借り、学習部屋とする。 ・対象は事前アンケートを基に小学校3～6年生をメインとして中学3年生までとする（その他の年代の子どもは要相談） ・こあら食堂スタッフが子どもたちに勉強を教える。 ・テキストは用意するが、極力子どもたちの要望に応えた指導を行う。 【告知方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・こあら食堂に来ている子どもに声掛け。 ・こあら食堂チラシに寺子屋こあらも併記する。 ・こあら食堂同様に、地域自治会、民生児童委員等含むボランティアが周知活動。 ・子ども館、地域内小中学校へ周知。

<p>既存の事業から ステップアップ する部分 (ステップアッ プ助成のみ)</p>	
<p>事業の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少しでも多くの子どもに学ぶこと、勉強ができた喜びを知ってほしい ・毎月 5～10 名程度の参加者 ・気軽に勉強相談ができるような場所 ・こあら食堂同様に地域に根付いた寺子屋となること
<p>今後の展望</p>	<p>各学校、学童などと交流、連携をして子どもたちの学習サポートができるような寺子屋を目指します。 具体的には定期的な情報交換の場を設けたり、スタッフと学校との意見交換が出来ればと考えています。</p>

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 61,150	対象事業費の一部及び対象経費を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 61,150	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 161,150	

【支出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	使用料	¥ 80,550	松戸新田第一町会集会所 6時間*11回、8時間*1回 1,100円/h (17時以降割増有) 集会所・会議室
	教材費	¥ 30,000	テキスト等の本代 小学校3年~6年 (4学年) 教科： 国語、算数、理科、 社会、英語 1,500円*5教科*4学年
	消耗品費	¥ 20,000	文房具 ・筆記用具 ・ノート、紙類 ・その他 鉛筆・ボールペン*各2*、チョーク、消しゴム等 ノート*20、紙、原稿用紙等 定規、下敷き、クリップ、バインダー等
		¥ 19,200	チラシ印刷用紙 1,600円*12回 (各回2,500枚)
	印刷製本費	¥ 11,400	印刷代 チラシ印刷：850円*12回 (版代100円+0.3円*2,500枚) プリント等コピー：10円*10枚*12回
	対象経費の合計 (D)		¥ 161,150
(その他経費 対象外)			
	その他経費の合計額 (E)	¥ 0	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 161,150	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成
事業番号 7
スタート助成

坂川水系自然環境向上事業

坂川の花桃を愛する会

事業計画書

事業名	坂川水系自然環境向上事業
団体名	坂川の花桃を愛する会

事業概要 <p>「坂川」をきれいな川にするとともに、より多様な水生植物が育ち、多くの魚が住む豊かな川にするため、再度（2回目）「ニホンナマズ」の稚魚（1,000匹）を、子ども達を含む地域住民とともに放流する。</p>	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<p>新松戸地区は約40年前に区画整理事業で出来た新しい街です。時代とともに整備され、美しく住みやすい街となりました。</p> <p>しかし、坂川水系は放水路として整備された工法などの関係もあり、生物（水草・小魚・水鳥など）が生息するにはまだまだ時間がかかりそうです。</p> <p>地域の力で手助けすることが必要だと考えています。</p>
事業の目的	<p>坂川水系に適した生物（ニホンナマズ）を放流し、自然環境向上を図るとともに、地元子ども会等の協力を得て、多世代が交流を持てる機会にし、地域住民の環境意識の向上を図り、併せてコミュニケーションエリアにしたい。</p>
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>①「ニホンナマズ」の稚魚の放流イベント</p> <p>私たちの団体（会員数108名）が中心となり、地域の「子ども会」「小中学校」「地域団体」などと協力して、放流イベントを開催し、自然環境への意識の醸成と、多世代の地域住民間の交流の場を創る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放流する稚魚の数：1,000匹 ・会場：北千葉導水路管理センター ・日時：令和2年6月頃 10時～12時 ・参加予定者：地域住民 約300名（子ども200名） ・内容：「ニホンナマズ」の稚魚の放流 江戸川・坂川の魚を水槽で展示 地域の魚・水鳥のパネル展示 ナマズの試食会 坂川の水質や地域の生植物についての講演会（外部講師） <p>②坂川における魚類・鳥類の定点観測</p> <p>坂川上流の野々下公園付近から松戸排水機場近辺までのエリアにて、魚類・鳥類の定点観測を実施する。</p>

2 スケジュール		
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
R2/4	国土交通省江戸川河川事務所・松戸市河川清流課・松戸漁業組合等と一緒にイベントの内容確認	
	各種申請	警察（道路使用許可）
	子ども会との協議	協力依頼
	備品・消耗品の手配 ニホンナマズの手配	
R2/5	広報活動	
	事前アンケートの実施	
R2/6	ニホンナマズ放流会実施	内容は1、事業内容のとおり
	事後アンケートの実施	
R2/7	反省会・今後の取り組み	役員会
	定点観測の場所を検討	
R2/9	定点観測（秋）実施	
R3/1	定点観測（冬）実施	
既存の事業からステップアップする部分 （ステップアップ助成のみ）		
事業の目標	<p>1、地域住民・子ども達に自然環境に関するアンケートを実施する。放流イベントの前と後で各1回実施し意識の向上を目指す。具体的には、「環境問題に関心がある」という回答80%以上を目標にする。</p> <p>2、放流イベントの参加者300名以上。</p> <p>3、小金中学校の科学部と、小金高校の生物部と協力関係を築き、坂川の環境問題について、一緒に調査・研究していく。</p> <p>4、坂川における定点観測を開始する。 秋・冬・春・夏の各シーズンで5か所、特定の場所を選定する。</p>	
今後の展望	<p>坂川の自然環境向上に資するテーマを今後も活動の中心に置き、5年後・10年後の坂川の未来計画を作成していく所存です。今年度も江戸川・坂川をテーマに文化講演会を計画・実施します。また、地球温暖化を考える一助に、「南極の氷」との接触機会を創る予定です。</p>	

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

区分	科目	予算額	積算内訳
団体	寄付金	¥ 200,000	会員・援助団体からの寄付
	自己資金の合計額 (A)	¥ 200,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
	合計額 (C) = (A+B)	¥ 300,000	

【支出】

区分	科目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	使用料	¥ 2,200	松戸警察に道路使用許可申請書
	消耗品費	¥ 90,000	ニホンナマズ稚魚1000匹×90
	賃借料	¥ 100,000	水稲・熱水ポンプ・カラーコーンなど
	報償費	¥ 60,000	外部監査料
	委託料	¥ 7,000	ナマズ巡検費
	印刷製本費	¥ 10,000	看板・ポスター・チラシなど
	対象経費の合計 (D)	¥ 269,200	
(他の経費(対象外))	食糧費	¥ 30,000	弁当50X8400 飲料50X8100 茶菓子50X8100
	振り込み手数料	¥ 800	
	その他経費の合計額 (E)	¥ 30,800	
	合計額 (F) = (D+E)	¥ 300,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 額の90%以内、自己資金 (A) 額が対象経費 (D) 額の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成
事業番号 8
スタート助成

相続・贈与に関する税務相談・遺言作成相談事業

特定非営利活動法人ライフ・サポート

事業計画書

	事業名	相続・贈与に関する 税務相談・遺言書作成相談事業																		
	団体名	特定非営利活動法人 ライフ・サポート																		
事業概要																				
<p>広く社会の市民に対して、資産管理という観点から相続に関する相談事業を行い、合理的な相続対策を推進させ、経済活動の活性化を図ることによって、公益に貢献すること。</p>																				
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<p>平成 27 年 1 月 1 日に行われた相続税の改正により、相続税の納税者が拡大された。松戸市においても、居住用の住宅と金融資産を有している一般家庭でも、申告・納税義務が発生する可能性が高い状況となっている。これを踏まえ、通常の税務相談より相続・贈与・遺言書の作成等に特化した相談事業を行うことにより、松戸市民の相続等への不安を解決したい。</p>																			
事業の目的	<p>広く社会の市民に対して、資産管理という観点から相続に関する相談事業を行い、合理的な相続対策を推進させ、経済活動の活性化を図ることによって、公益に貢献すること。</p>																			
事業内容	<p>社会貢献事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税理士による相続税・贈与税の税務相談 ・行政書士による遺言書の作成の相談 <p>団体は、「広報まつど」に掲載されることから、信頼と安心感をもってお問い合わせや相談をしていただける。</p> <p>上記により、相続に不安を感じている市民の方々に、専門家による個別の有益な情報を無償で提供できる。</p> <p>2 スケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5 月</td> <td>相談事業</td> <td>専門家招集、松戸市民、松戸市民会館会議室等</td> </tr> <tr> <td>7 月</td> <td>相談事業</td> <td>専門家招集、松戸市民、松戸市民会館会議室等</td> </tr> <tr> <td>9 月</td> <td>相談事業</td> <td>専門家招集、松戸市民、松戸市民会館会議室等</td> </tr> <tr> <td>11 月</td> <td>相談事業</td> <td>専門家招集、松戸市民、松戸市民会館会議室等</td> </tr> <tr> <td>1 月</td> <td>相談事業</td> <td>専門家招集、松戸市民、松戸市民会館会議室等</td> </tr> </tbody> </table>		実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	5 月	相談事業	専門家招集、松戸市民、松戸市民会館会議室等	7 月	相談事業	専門家招集、松戸市民、松戸市民会館会議室等	9 月	相談事業	専門家招集、松戸市民、松戸市民会館会議室等	11 月	相談事業	専門家招集、松戸市民、松戸市民会館会議室等	1 月	相談事業	専門家招集、松戸市民、松戸市民会館会議室等
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など																		
5 月	相談事業	専門家招集、松戸市民、松戸市民会館会議室等																		
7 月	相談事業	専門家招集、松戸市民、松戸市民会館会議室等																		
9 月	相談事業	専門家招集、松戸市民、松戸市民会館会議室等																		
11 月	相談事業	専門家招集、松戸市民、松戸市民会館会議室等																		
1 月	相談事業	専門家招集、松戸市民、松戸市民会館会議室等																		

<p>既存の事業から ステップアップ する部分 (ステップアッ プ助成のみ)</p>	<p>スタート助成のため省略</p>
<p>事業の目標</p>	<p>奇数月の第三木曜日の、13時から16時に会場を設ける。 開催の度に最大相談人数を9枠設け、毎回5名前後の相談者が来訪されることを想定している（市川市での実績値を参考）。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>松戸市は、東京都と隣接しているため不動産の価値が高く、相続が発生した際に相続税の申告が必要な事例が多い地域である。 当活動を通して、相続や遺言に関心があるが、どこに相談したらいいか検討している市民の方々に、専門家による個別の有益な情報を無償で提供することができる。 今後は、活動を続けることにより、一人でも多くの市民の方々に、相続が発生した場合等の不安の減少や、現在の選択肢の認識等を深めることを実現していきたい。</p>

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 8,060	事業費の一部を団体会計より支出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 8,060	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 5,940	
	合計額 (C) = (A+B)	¥ 14,000	

【支出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	使用料	¥ 6,600	@440円 × 3h × 5回 = 6,600円 上記は、令和元年10月増税後の松戸市民会館の101.302会議室の日中の使用料
	対象経費の合計 (D)	¥ 6,600	
(その他経費 対象外)	交通費	¥ 7,400	片道370円 (本八幡駅-松戸駅) × 2 × 2人 × 5回 = 7,400円
	その他経費の合計額 (E)	¥ 7,400	
	合計額 (F) = (D+E)	¥ 14,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成

事業番号 9

スタート助成

イベント型＋交流型の居場所「悠々」の提供事業

NPO法人さわやか福祉の会・松戸くらしの助っ人

事業計画書

事業名	イベント型+交流型の居場所「悠々」の提供事業
団体名	NPO 法人 さわやか福祉の会・松戸くらしの助っ人

事業概要 従来の「イベント型」の居場所「悠々」の新たな展開として、いつでも気軽に来て、おしゃべりしたり、意見交換できる異年齢交流の「交流型」居場所「悠々」も提供する事業。	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	市の課題として、通所施設や入所施設のほか、日中の通いのサービスを中心に小規模多機能型居宅介護、そして、近隣（ボランティア）による支援など総合的な取り組み課題、福祉サービスを提供する仕組みづくりが求められている。
事業の目的	<p>従来の『悠々』では何かイベントを提供しながら居場所提供をしていましたが、本事業では異年齢交流の交流型の居場所として、【いつでも立ち寄れていつでも帰れる】【誰もが利用できる】【時間を自由に過ごせる】【経験や能力を生かせる】【自分の存在を認識できる】など、人と人のつながりが生まれ、助け合う関係になれる居場所も提供する。</p> <p>本事業の提案理由： 本事業の背景には、従来のイベント型居場所『悠々』の課題（順不同）は、 ✓イベント講師を平日 23 日間/月、毎回探すのが難しい。 ✓イベント型の良さもあるが、誰もが自由に過ごし自分の経験を生かした居場所になり難い。 ✓異年齢交流の場となり難い。 ✓現状の悠々では必ず助っ人会員スタッフが同席しており、スタッフの負担が大きい。 これら課題を解決するために、「イベント型」+「交流型」の居場所『悠々』の提供を事業内容とする。</p>
事業内容	<p>1. 事業内容</p> <p>●イベント型居場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者：誰でも参加OK。事前に事務所に連絡必要。 ・開催日：150回/年、各イベントの開催日（予定表）は前月末までにチラシ発行、フェイスブック、ホームページに掲載。 ・イベント内容：毎月異なり、「楽しい書」「ウエス作り」「脳活性ヨガ」「歌声ライブ（ウクレレ、ギター、アコーディオン演奏等）」「オープン粘土」「スマホ勉強会」「パソコン教室」「健康吹き矢」「気軽にお抹茶を」「よろず相談」「大人のぬり絵」「入園グッズ作り」など ・参加費：300円/回 ・講師への謝礼：1000円/回

●交流型居場所

- ・参加者：誰でも参加OK。
- ・開催日：イベント型悠々の開催していない日（120回/年）に開催、基本的に平日 10:00～12:00（14:00）
詳細な開催日は毎月、月末に事務所前に次月の予定表を掲示、フェイスブック、ホームページに掲載。
- ・参加費：300円/回
- ・提供物：お茶、お茶菓子など

2. 事業スケジュール

月	具体的な取り組み	実施内容など
4	従来のイベント型居場所「悠々」以外に、交流型居場所「悠々」も同時開催開始	・それぞれの開催内容は上述の通り ・本事業掲載の会報発行
5	イベント型+交流型の開催	・5月連休のため開催回数少ない
6	イベント型+交流型の開催 チラシ発行	・開催2か月の経過を踏まえて新規 チラシ作成&発送
7	イベント型+交流型の開催	・本事業掲載の会報発行
8	イベント型+交流型の開催	・盆休みのため開催回数少ない
9	イベント型+交流型の開催	
10	イベント型+交流型の開催	・本事業掲載の会報発行
11	イベント型+交流型の開催	
12	イベント型+交流型の開催	・年末のため開催回数少ない
1	イベント型+交流型の開催	・本事業掲載の会報発行 ・年始のため開催回数少ない
2	イベント型+交流型の開催	
3	イベント型+交流型の開催 本「スタート助成」の総括	交流型悠々の課題整理 次ステップの課題解決提案準備

既存の事業からステップアップする部分（ステップアップ助成のみ）

事業の目標

従来のイベント型『悠々』の2018年度の実績では年間開催回数113回、延べ参加人数418名であった。この実績を踏まえて、
本提案事業のイベント型+交流型の『悠々』の成果目標は、
●年間開催回数=150回/イベント型、120回/交流型
●延べ参加者数=500名/イベント型、360名/交流型

今後の展望

スタート助成の新たな交流型居場所『悠々』を1年間トライし、その課題が整理できるはず、次ステップではその課題解決を目指してステップアップ助成でその解決策を提案したい。

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

区分	科目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 324,000	卒業費の一部を団体の会計より拠出
	筈々参加費	¥ 258,000	300円/名 × (500名 (イベント型) + 360名 (交流型))
	自己資金の合計額 (A)	¥ 582,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 682,000	

【支出】

区分	科目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 150,000	外部講師の謝礼 1,000円/回 × 150回 (イベント型)
	通信費	¥ 84,000	郵便切手 84円 × 1000部発送
	印刷製本費	¥ 54,000	チラシ、リーフレット印刷 チラシ：3000部 リーフレット：3000部
	消耗品費	¥ 10,000	インク代、コピー紙など
	食糧費	¥ 60,000	お茶代、菓子代など 初年度のみ500円/回 × 120回 (交流型)
対象経費の合計 (D)		¥ 358,000	
(対象外) その他経費	会場使用料	¥ 324,000	部屋代として (600円/h × 2h/回) × [150回 (イベント型) + 120回 (交流型)]
	その他経費の合計額 (E)	¥ 324,000	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 682,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 額の90%以内、自己資金 (A) 額が対象経費 (D) 額の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成
事業番号 10
スタート助成

傾聴ボランティア養成事業

心のふれあい 傾聴ボランティア「かざぐるま」

事業計画書

事業名	傾聴ボランティア養成事業
団体名	心のふれあい傾聴ボランティア 「かざぐるま」

<p>事業概要</p> <p>現在主な活動先は高齢者施設であるが、身体障がいや精神疾患の方からの依頼も増えている。これらの依頼に適切に対応できるよう会員のスキルアップを行う。また、増加する依頼、多様化する希望日時に対応できるよう、会員増を目指す。</p>
--

<p>取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）</p>	<p>高齢化により、認知症患者や独居高齢者が増えている。また、認知症だけでなく、身体障がい者や精神疾患等、多様な傾聴ニーズが存在している。しかし現在、これらのニーズに対し、十分な対応ができる人材は不足しており、高い傾聴スキルを持った人材が必要とされている。</p>									
<p>事業の目的</p>	<p>会員及び学習機会を増やし、よりレベルの高い、ニーズに応えられる傾聴を行える人材の拡充を目指す。</p>									
<p>事業内容</p>	<p>1 事業内容</p> <p>① 傾聴の実践（市内高齢者・障がい者施設、個人宅） 依頼のあったグループホーム・特別養護老人ホーム・デイサービス・個人宅において 1時間/1回の傾聴を行う</p> <p>② 定例会に於いての情報共有、スキルアップ 傾聴活動における疑問・悩み・体験の共有 産業カウンセラーによるスキルアップ（アドバイス・模擬傾聴・交流分析等）</p> <p>③ 勉強会・講座の開催 勉強会 認知症・精神疾患・傾聴等の講義 講座 傾聴とはなにか（アクティビティ中心）</p> <p>2 スケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>随時</td> <td>傾聴活動</td> <td>実施体制：会員 対象：市内高齢者・障がい者施設、個人宅</td> </tr> <tr> <td>毎月 (5, 8月 除く)</td> <td>定例会</td> <td>実施体制：会員 会場：矢切ボランティアセンター 講師：産業カウンセラー(1名)</td> </tr> </tbody> </table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	随時	傾聴活動	実施体制：会員 対象：市内高齢者・障がい者施設、個人宅	毎月 (5, 8月 除く)	定例会	実施体制：会員 会場：矢切ボランティアセンター 講師：産業カウンセラー(1名)
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など								
随時	傾聴活動	実施体制：会員 対象：市内高齢者・障がい者施設、個人宅								
毎月 (5, 8月 除く)	定例会	実施体制：会員 会場：矢切ボランティアセンター 講師：産業カウンセラー(1名)								

	4月	講座準備	チラシ・資料作成、役割分担等
	5～6月	講座開催(全5回1セット)	対象：一般応募及び会員 会場：矢切ボランティアセンター 講師：産業・育児・教育カウンセラー・心理カウンセラースーパーパイザー(2名)
	11月	勉強会	対象：一般応募及び会員 会場：矢切ボランティアセンター 講師：心理療法士(1名)
	2月	勉強会	対象：一般応募及び会員 会場：矢切ボランティアセンター 講師：心理カウンセラー(1名)
既存の事業からステップアップする部分 (ステップアップ助成のみ)			
事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 傾聴の実践・・・17施設(個人宅)250回/年 ・ 勉強会、講座の開催・・・3回/年 ・ 講座参加者・・・30名 ・ DVDの購入と視聴・・・2枚 ・ 書籍の購入と貸し出し・・・5冊程度 ・ 講座受講生募集チラシの増刷・・・200枚 ・ 会報の増刷・・・80部 		
今後の展望	<p>会員数増加と、会員各自のレベルアップを図り、より幅広く細やかな傾聴活動ができるようにする。学びと実践を重ね、会員並びに地域の人々への傾聴への理解を深めてゆく。</p>		

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

区分	科目	予算額	積算内訳
団体	団体提出金	¥ 18,600	事業費の一部を団体の会計より提出
	受贈費	¥ 30,000	@1,500円×20名 30,000円
	自己資金の合計額 (A)	¥ 48,600	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 148,600	

【支出】

区分	科目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 90,000	外部講師謝礼 30,000円 定例会 @3,000円×10回 30,000円 講座 30,000円 勉強会 30,000円 (産業カウンセラー・心理カウンセラー・心理療法士・施設管理者等)
	印刷製本費	¥ 13,100	チラシ @4円×375枚 1,500円 会報 (会員・受講者・訪問先配布) @40円×3枚×80部 9,600円 定例会資料印刷 200円/回×10回 2,000円
	消耗品費	¥ 37,100	講座用賞状用紙 30枚 1,500円 筆記具 (鉛筆・ボールペン) 1,000円 クリップボード @340円×30枚 10,200円 書籍 (2,500円×4冊) 10,000円 DVD (認知症・傾聴に関して) 10,000円 インク 1セット 4,000円 コピー用紙 資料作成用 400円
	食糧費	¥ 3,000	受講生茶菓子代 (一般応募者用) 3,000円
	対象経費の合計 (D)	¥ 143,200	
	(その他経費)	講師お茶代	¥ 2,400
ボランティア保険		¥ 3,000	@150円×20名 3,000円
その他経費の合計額 (E)		¥ 5,400	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 148,600	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成
事業番号 11
ステップアップ助成

地元発掘レシピに拠る食育キャラバン事業

数値調理会

事業計画書

事業名	地元発掘レシピに拠る食育キャラバン事業
団体名	数値調理会

事業概要 市内の男の料理教室実施団体が持つレシピを集め、図書館をよく利用する高齢男性に配布・講演し、食育キャラバンを市民センター8 箇所に行い、健康増進への関心を高める。	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	松戸市では生活習慣病患者に占める高齢男性の割合が高く、しかも増加傾向にある。対策として健康食を普及し、高齢男性の内食（うちしょく）志向と意欲的な市民生活を営み、健康維持する必要がある。
事業の目的	これまで公開されなかった市内の男の料理教室実施団体が持つレシピを集め男が調理できた実績を持つレシピ集を作成し、図書館をよく利用する高齢男性と読み合わせを行い、内食志向を高め、食の改善を図り、高齢者の健康増進を目指す。料理諸団体の紹介と、家庭外会話の認知症予防メリットを論じ、図書館滞在中に沈黙を強いられる図書館をよく利用する高齢男性の会話機会への気付きを促す。
事業内容	<p>I. レシピ集の作成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 協力団体募集：公開可能なレシピを持つ団体と個別に事前折衝し、協力体制を作る。 2) レシピを選択し、表紙デザインを決める。 3) 編集員募集 編集員は古い紙媒体レシピを電子媒体に変換し、10品目累積分析と再現食によりレシピを評価選別し、原稿に清書する仕事であり、料理教室実施団体のほか一般からも募集する。 4) レシピの編集・監修 <ol style="list-style-type: none"> ① 編集員向けの編集ワークショップ（受講者が担当分野のレシピの10品目累積分析と実際にレシピから再現し試食し、そのレシピを評価する。配布読み合わせ会に提供する再現食を試食から選ぶ。） ② レシピ集の原稿作成 ③ 監修：監修者選定（候補：東京聖栄大学宮内教授） ④ 監修後修正、印刷 5) 製本 <ol style="list-style-type: none"> ① 編集員が集まる製本ワークショップによって製本する。 <p>II. レシピの配布・読み合わせ会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 図書館をよく利用する高齢男性に魅力あるレシピ配布・読み合わせ会 場所 図書館をよく利用する高齢男性が通い慣れて便利な図書館が付属する市民センター8 箇所へキャラバンして実施することで受講者の高齢男性比率を上げる。 内容 発掘レシピの再現食を無償提供し、レシピ読み合わせ会を開催する。（食欲に訴える。） 男性読書人の認知症予防テーマの説明を行う。（家庭外会話による知的能力維持を訴える。） 「松戸第2期データヘルス抜粋」*2) を引用し 高齢男性の健康問題から、ありがたい食生活・市民生活を述べ、

	<p>レシピ読み合わせ会を始める。</p> <p>レシピ配布時の講演 サポセン登録団体、社会教育団体、市民活動団体である料理教室の紹介および、外部講師による専門性の高い講演を実施。</p> <p>配布後の継続読み合わせ会 レシピの残余ページの読み合わせを遂行するため自費による自立した読み合わせ会の翌月からの継続期待を表明する。</p> <p>2) パネル討論配布会(レシピ公開の是非を議論。定員15名) パネラー：市内料理教室代表者や子ども食堂主催者とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4～6月</td> <td>準備</td> <td>レシピ選択・表紙デザイン・編集員教育(女性センターで)</td> </tr> <tr> <td>7～9月</td> <td>レシピ集の編修・監修</td> <td>監修を大学教授に依頼する</td> </tr> <tr> <td>10～12月</td> <td>500部印刷・製本。配布読み合わせ会の前半実施</td> <td>配布・読み合わせ会の前半を4市民センターで開催し、再現食を提供する。</td> </tr> <tr> <td>1～2月</td> <td>パネル討論会・配布読み合わせ会の後半実施。</td> <td>討論会を市民活動サポートセンターで開催し、残り4市民センターの配布・読み合わせ会を続け、再現食を提供する。</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td>清算・報告書作成</td> <td>数値調理会</td> </tr> </tbody> </table>	時期	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4～6月	準備	レシピ選択・表紙デザイン・編集員教育(女性センターで)	7～9月	レシピ集の編修・監修	監修を大学教授に依頼する	10～12月	500部印刷・製本。配布読み合わせ会の前半実施	配布・読み合わせ会の前半を4市民センターで開催し、再現食を提供する。	1～2月	パネル討論会・配布読み合わせ会の後半実施。	討論会を市民活動サポートセンターで開催し、残り4市民センターの配布・読み合わせ会を続け、再現食を提供する。	3月	清算・報告書作成	数値調理会
時期	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など																	
4～6月	準備	レシピ選択・表紙デザイン・編集員教育(女性センターで)																	
7～9月	レシピ集の編修・監修	監修を大学教授に依頼する																	
10～12月	500部印刷・製本。配布読み合わせ会の前半実施	配布・読み合わせ会の前半を4市民センターで開催し、再現食を提供する。																	
1～2月	パネル討論会・配布読み合わせ会の後半実施。	討論会を市民活動サポートセンターで開催し、残り4市民センターの配布・読み合わせ会を続け、再現食を提供する。																	
3月	清算・報告書作成	数値調理会																	
既存の事業からステップアップする部分 (ステップアップ助成のみ)	<p>これまで、本会の新作レシピを印刷配布し、レシピ需要を開拓し、試食会をほぼ毎月固定箇所で開催し、女性会員を増やした。</p> <p>ステップアップ部分は、他教室の埋蔵レシピを発掘し、レシピ集にまとめ、生活習慣病予備群になりやすい高齢男性が多い図書館をよく利用する高齢男性を対象に直接配布し、健康食を普及すること。</p>																		
事業の目標	<p>養成編集員数 10名(一般市民を含む。)</p> <p>調査レシピ数 200 うち採択レシピ 48 (うち 再現試食 18種)</p> <p>印刷部数 500部</p> <p>配布読み合わせ会・パネル討論会参加者 延べ250名(内130名は自費継続の読み合わせ会人数)</p> <p>協力団体の会員 8名増</p>																		
今後の展望	<p>1) 複数のレシピ読み合わせ会を自費で継続すれば、高齢者の家庭外会話が豊かになり、認知症リスクが低減する。同時にレシピを理解し内食志向が高まる。</p> <p>2) レシピ公開が市内全料理教室の風潮となる。健康推進課など行政にも情報提供でき、健康教育受講者の食生活実態が把握でき、食改善の計画実行分析訂正(PDCA)活動が回り始める。</p> <p>3) 料理教室の男性会員が増え、男性の健康寿命が延びる。</p>																		

*1) 10品目累積分析とは：食品10分類「魚・油・肉・牛乳・野菜・海藻・芋・卵・大豆・果物」の毎食分析を継続し、10品目達成までの食数で評価する最新方法。但し、1食10品目達成を最高点とする。

*2) 「松戸第2期データヘルス」の正式名称は「松戸市国民健康保険保健事業実施計画」図書館で閲覧可能。松戸市男性の医療費の高止まり、短寿命が記載されている。

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

区分	科目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 11,590	事業費の一部を団体の会計より拠出
	講座参加料	¥ 22,500	編集ワークショップ500円×30人+パネル討論500円×15人
	自己資金の合計額 (A)	¥ 34,090	
市	市民活動助成金 (B)	¥292,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 326,090	

【支出】

区分	科目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 39,000	外部講師・監修料 3,000円×8回 15,000円×1回
	印刷製本費	¥ 114,200	レシピ印刷・チラシ(編集員募集+配布会) 198円*500部 (レシピ) 1200円+1000円*8分館 (チラシ) 6,000円 (ゲラ印刷) +2色刷りゲラ
	消耗品費	¥ 93,500	A3カラー印字用紙 紙+事務用品 8,000円 食材費¥85,500 食材500円* (編集員再現試食36人+パネル15人+配布読み合わせ120人)
	食糧費	¥ 16,000	編集ワークショップ お茶菓子代等 200円×10人*3回 製本ワークショップ お茶菓子代等 200円×10人*5回
	使用料	¥ 47,370	会場使用115H 250円×(レシピ準備47H+パネル討論4H+配布3H*8回+継続読み合わせ2H*8*2.5回) 調理室使用49H 380円×(レシピ準備13H+配布4H*8回+パネル討論4H) 延べ49時間
	通信費	¥ 4,620	ゆうメール 210円×10料理教室 郵便 (定形外) 84円×15人*2回(編集員宛)
	保険料	¥ 10,200	検便1700円×6人 (講師1+贈3+配膳2) 名
		対象経費の合計 (D)	¥ 324,890
外(対象)その他経費	食糧費	¥ 1,200	幹事方針会議 ドリンク代 200円*6人*1回
	その他経費の合計額 (E)	¥ 1,200	
合計額(F) = (D+E)		¥ 326,090	

【チェック項目】

1助成金(B)が対象となる経費(D)欄の90%以内、自己資金(A)欄が対象経費(D)欄の10%以上であること。
2助成金(B)が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成
事業番号 12
ステップアップ助成

よく生き、よく逝くための基礎知識普及事業

一般社団法人コスモス成年後見サポートセンター
千葉県支部

事業計画書

事業名	よく生き、よく逝くための基礎知識普及事業
団体名	一般社団法人コスモス成年後見サポートセンター千葉県支部

事業概要 個人の尊厳を守りながら死を迎えるために必要な事項を専門家から学ぶとともに、そうした意思表示を確実に家族や親族・周囲の支援者・知人等に伝えるための方法としてのエンディングノートの書き方をワークショップ形式で演習する。	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	厚生労働省が推進する成年後見制度利用促進計画が3年目を迎え、具体的な策定が各自治体に求められているところ、広く権利擁護に係る支援を必要とする高齢者や障害を持っている市民が松戸市内においても増加している。このような中、日常生活に関する支援のみならず自身若しくは生計において支柱となる親族に死亡・傷病等の理由による不測の事態が生じた場合又は生じるおそれがある場合における支援は喫緊の課題であり、福祉・医療・法律の分野が密接に連携し地域支援のネットワークを構築する必要性は依然高まっているものと思われる。
事業の目的	上記のような状況認識に立ち、医師や弁護士から「自分らしく死ぬ」ために必要な日常生活上又は法律上の準備すべき事柄について事例を交えた講義をいただき、その後小グループに分かれてワークショップ形式でエンディングノートを書くことにより「自分らしく死ぬこと」の内容を自覚し、他者にその意思表示を確実に伝えるための方法を学ぶための事業を平成31年度中松戸市内で3回開催したが、今回は参加者からのニーズが高かった「自分自身の意思を伝えられなくなった状態でも自分らしく死ぬために必要なこと」について医師又は地域連携担当ケースワーカーから講義をいただき、また前回と同様にエンディングノートの書き方ワークショップを通じて参加者に理解を深めていただくことを目的とする。
事業内容	1 事業内容 以下(1)及び(2)をセットにして、3会場で実施する (1) 講演会 自分自身の意思を伝えることが難しくなったような状況で、それでも自分らしく死ぬためにはどうしたらよいか、というテーマについて、特に「終末期医療」「尊厳死」「看取り」の局面を想定した30～50分程度の講義を、医師及び地域連携担当ケースワーカー等医療関係者に依頼して行う。 これにより、「人の死」にまつわる様々な問題の本質を提示し、「人の死」に直面する前に意識・関心を持つことと事前に備えることの重要性を参加者に理解していただく。 (2) ワークショップ 前述の講義内容に対する理解をさらに深めるため、医療・介護・看取り・死後事務において問題となる事項についての自己確認作業として、エンディングノートの一部作成を少人数のグループにまとまって行う。 作成例の解説と作成指導は当団体の会員をグループごとに配置し、当該会員が担当する。そして参加者からの質問等にこまめに対応することにより、エンディングノートの作成の意義と、「自分らしく死ぬ」ために必要な事項

についての理解を深め、また、参加者間で共有していただく。
 時間は結果のシェアリングを含めて60～80分を予定。

2 スケジュール

実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・企画、協力機関へのプレゼン ・資料、チラシの作成・印刷 ・会場の確保 ・周知（公共施設等へのチラシの配付、市報等への掲載、当団体のHPへの掲載等） 	会議等は当団体会員事務所を使用 松戸市内の地域包括支援センター、社会福祉協議会、社会福祉法人等に協力を求める 講師は市内の医師（病院勤務・訪問医療）に協力依頼 会場は市民センター等公共施設を中心に確保
5月	協力団体へのプレゼン 一部実施	準備作業については4月に同じ準備が整った会場から順次実施
6～7月	実施	前年度に実施した地域以外の3ヶ所での実施を予定
7月	報告書作成	当団体会員事務所において事業報告、会計に関する書類作成・提出

既存の事業から
 ステップアップ
 する部分
 （ステップアップ
 助成のみ）

前年度の事業実施を通じて構築することができた当団体と医療機関・地域包括支援センターとの交流をエリア的に拡大することができる。
 また、テーマを医療的な見地に絞ることにより『自分らしく死ぬ』ためには医療と法律が連携することが重要である」とのメッセージをより明確に市民に提示することができ、そのメッセージを医療関係者と法律職が共有することによって、傷病のため日常生活が損なわれている市民の権利擁護に対してもより効果的な支援を提供できるようになる、と考える。

事業の目標

3会場で延べ180人程度の参加を見込む。参加費は無料。
 実施会場は3ヶ所を予定。原則として公共施設を利用する。
 用意するエンディングノートは、会場でのワークショップにおける使用以外に、参加者による参加者の近親者等への紹介用として1会場あたり100部ほどの配付を見込む。

今後の展望

現在松戸市における地域連携の活動は15ある地域包括支援センターが単位となっているが、5年後をめどにこの地域包括支援センターがそれぞれに所管する15の全地域において本事業を実施し、「自分らしく死ぬ」ために必要な準備を生前に進めておくことの重要性を広く市民に啓発するとともに、行政書士法改正（今臨時国会において法案審議予定）により「国民の権利利益の実現を図る」ことが行政書士制度の目的とされるようになることから、広く市民の権利の保護に寄与する行政書士像の構築と実践に努める。

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 136,480	対象事業費の一部及び対象外経費を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 136,480	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 300,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 436,480	

【支出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 240,000	外部講師謝礼 (医師及びケースワーカー) 各8万円×3回 (医師5万、GW3万)
	消耗品費	¥ 10,000	紙 8580枚+予備 エンディングノート用は印刷費に含む チラシ・レジユ・アンケート用として単価1.0円
		¥ 5,000	名札、セロテープ等消耗品 一式
	食糧費	¥ 480	講師お茶 160円×3本
	印刷製本費	¥ 9,000	エンディングノート印刷代 30円×300部 (最適値ロット)
		¥ 85,000	チラシ1500部 (カラー)・レジユメ60名×30P (モノ)・アンケート60部 (モノ) の印刷費 モノ3.0円×(1800+60)×3会場 カラー15円×1500×3会場 に予備
	使用料	¥ 6,000	会場使用料 2000円×3会場として
		¥ 9,000	器材レンタル料 プロジェクター3000円×3会場として
対象経費の合計 (D)		¥ 364,480	
(対象外) 経費	交通費	¥ 36,000	会員交通費 平均1000円 (往復) ×12名×3会場
	活動費	¥ 36,000	会員日当 1000円×12名×3会場
	その他経費の合計額 (E)	¥ 72,000	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 436,480	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 額の90%以内、自己資金 (A) 額が対象経費 (D) 額の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成
事業番号 13
スタート助成

冒険山開放に伴う見守り事業

冒険山開放委員会

事業計画書

事業名	冒険山開放に伴う見守り事業
団体名	冒険山開放委員会

事業概要	<p>小金北小学校にある遊具施設（冒険山）を開放し、地域を超えた子ども達が、自由に、安全に遊べるよう、その見守り活動と・体験広場を開催し、用具の準備・工材の購入・工作のアドバイス等を行う。</p>
-------------	--

取り組もうとするテーマ	<p>近年小学生の7割が、外で遊ばないというデータが出ております。子ども達の遊ぶ時間・場所がない・仲間づくりができない等がその要因です。</p> <p>そこで小金北小学校にある遊具施設（冒険山）を休日に開放し、自由に遊べる場所と、時間を提供し、健全な仲間づくりの醸成のため、その見守りと、体験広場・イベントを開催する。</p>						
事業の目的	<p>冒険山を開放し、危険を自分自身で感じられる自立心と挑戦力の醸成に寄与すること。また地域を超えた子ども達が遊びを通じて集うことにより、子ども達の視野を広げ、相互の存在を認めあえる場の提供等を目的とします。</p>						
事業内容	<p>1・事業内容</p> <p>① 冒険山開放日の参加者見守りと、各種体験広場の開催。 （冒険山開放日：毎月第1・2日曜日1時から4時） 体験広場：（竹馬つくりと騎乗・竹ぼっくりつくり・ストラックアウト・凧つくりと大会・こま回し、羽根つき大会・工具を使い各種木材作品作り・けん玉・焼き芋大会・料理教室の開催等。）</p> <p>② 講演会の開催 講師：木下 勇（千葉大大学院教授工学博士） 講演内容：遊びの社会的介入としての移動式遊び開催について 講師：下 正宗（前東葛病院長） 講演内容：地域に開かれた学校づくり 対象：学校関係者・地域自治体役員・関係団体・見守り隊員等（100名程度） 場所：小金北小体育館</p> <p>2・スケジュール</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%; padding: 5px;">開催月</th> <th style="width: 60%; padding: 5px;">具体的な取り組み</th> <th style="width: 30%; padding: 5px;">実施体制、対象、場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; padding: 5px;">4</td> <td style="padding: 5px;">① 開放時の見守り②体験広場</td> <td style="padding: 5px;">隊員：2～4名・北小校庭</td> </tr> </tbody> </table>	開催月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所	4	① 開放時の見守り②体験広場	隊員：2～4名・北小校庭
開催月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所					
4	① 開放時の見守り②体験広場	隊員：2～4名・北小校庭					

	5	① 開放時の見守り②体験広場	北小校庭
	6	① 開放時の見守り②体験広場	北小校庭
	7	① 開放時の見守り②夏休み自由 作品展のアドバイス	北小校庭
	8	① ソーメン流し・かき氷の提供	北小校庭・町会応援
	9	① 開放時の見守り②体験広場 ② 講演会の開催	北小校庭 北小体育館
	10	① 開放時の見守り②体験広場	北小校庭
	11	① 焼き芋大会	小金農園・北小校庭
	12	① 開放時の見守り②体験広場	北小校庭
	1	① 凧揚げ大会②羽根つき大会	北小校庭
	2	① 開放時の見守り②体験広場	北小校庭
	3	① 開放時の見守り②体験広場	北小校庭
事業の目標	<p>1・参加人員を増やす。(初年度 1 日平均 13 名の倍増 25 名を目指す。)</p> <p>2・安定した見守り隊員数 (現在 17 名を 25 名に増やす。) の確保。</p> <p>3・イベント回数 (初年度は 1 回) を増やす。年間 2～3 回程度を目指す。</p> <p>(1・の目標を達成するには、ただ、冒険山の体験だけでは限界がある。体験広場の充実とイベント回数を増やし、インパクトのある企画を実施することにより、子供達と、保護者も含む幅の広い密接な関係を築き、参加者の定着を図る。)</p>		
今後の展望	<p>1・事業資金の確保</p> <p>現在小金地区の連合町会・自治会は 35 町会があります。現状、各町会の子ども会組織は減退し、子ども達が集い、競い、仲間づくりの場が少なくなっております。この冒険山開故事業目的を拡大して、これをベースに「小金北地区子ども会」組織を結成し、運営費補助の確保を目指す。</p> <p>2・この様なボランティア活動で、目標に掲げた事業を遂行・、継続してゆくうえで大切なことは、まず隊員相互が事業の本質を理解され、信頼と協調の上で、参画されることが大切である。</p> <p>また、この活動を通して、地域住民の理解と協力を得ることが急務である。</p>		

(第6条関係)

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

科目		金額	積算内訳
団体	団体助成金	¥ 30,000	小金北地区町会よりの助成金
	関係団体寄付金	¥ 20,000	地域商店会他より4件
	自己資金の合計額 (A)	¥ 50,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 150,000	

【支出】

科目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	消耗品費	¥ 100,000	・コピー用紙・プリンターインク (10,000円) ・書類保管ケース2個 (5,000円) ・イベント用容器他 (10,000円) ・工作用品材料 (竹・板・大工道具一式) (25,000円) ・そめん流し用食材 (ソーメン・だしつゆ・薬味・氷他) (40,000円) ・焼き芋用芋代 (10,000円)
	使用料	¥ 10,000	打ち合わせ会場費 (1,000円×10回)
	保険料	¥ 5,000	イベント行事保険500円×10回
	対象経費の合計 (D)	¥ 115,000	
その他経費	報償費	¥ 20,000	講演会の内部講師謝礼10,000円×2人
	食糧費	¥ 5,000	隊員の飲み物代
	交通費	¥ 10,000	隊員の交通費 (連絡・雑務・ガソリン代)
	その他経費の合計 (E)	¥ 35,000	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 150,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成
事業番号 14
スタート助成

居場所提供と家出女性保護事業

NPO法人仮り暮らし

事業計画書

事業名	居場所提供と家出女性保護事業
団体名	NPO 法人仮り暮らし

<p>事業概要</p> <p>日中の居場所が無いと感じる女性たちに低額で長時間滞在できる場所を提供するとともに、家出についての相談を受け、実際に家出した女性を保護し、家庭復帰や自立に向けて生活を共にする。</p>

<p>取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）</p>	<p>松戸駅はこれらの理由からいわゆる「神待ち」の場として男女の利用が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺にホテルが点在している。 ・ターミナル駅であるため遅い時間帯でも電車で出かけることができる。 <p>特に次の路地は待ち合わせ場所として有名である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイエーと西口公園の間の通り ・松戸駅前のファミリーマートとアトレの間の通り ・松戸駅東口/西口のデッキ上 <p>深夜帯のこれらの周辺は、声掛けを待つ女性や、彼女らを物色する男性を見かけることが多い。</p>						
<p>事業の目的</p>	<p>今晚を過ごす場所のない女性が低額もしくは無料で過ごすことができる場所を提供し、仮り暮らしの家を頼りながら家庭への復帰や自立に向けて身の危険なく生活できるようサポートすること。</p>						
<p>事業内容</p>	<p>1 事業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 相談対応の場も兼ねた居場所を日中から夜間にかけて提供する。 ② 家出女性に仮り暮らしの家を提供し、身の危険から保護する。 ③ 就職に役立つ資格の獲得に向け参考書を用意し、資格取得を支援する。 ④ 各種公的制度や他の団体を紹介し、家庭への復帰や自立を支援する。 <p>2 スケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通年で実施する</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> ① 相談対応と居場所の提供 ② 家出女性保護 ③ 資格取得支援 ④ 家庭復帰・自立支援 </td> <td> <p>実施体制：構成員が実施</p> <p>対象：若年女性</p> <p>場所：松戸市内</p> <p>周知の方法：SNS と HP での告知 およびチラシ配架</p> </td> </tr> </tbody> </table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	通年で実施する	<ol style="list-style-type: none"> ① 相談対応と居場所の提供 ② 家出女性保護 ③ 資格取得支援 ④ 家庭復帰・自立支援 	<p>実施体制：構成員が実施</p> <p>対象：若年女性</p> <p>場所：松戸市内</p> <p>周知の方法：SNS と HP での告知 およびチラシ配架</p>
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など					
通年で実施する	<ol style="list-style-type: none"> ① 相談対応と居場所の提供 ② 家出女性保護 ③ 資格取得支援 ④ 家庭復帰・自立支援 	<p>実施体制：構成員が実施</p> <p>対象：若年女性</p> <p>場所：松戸市内</p> <p>周知の方法：SNS と HP での告知 およびチラシ配架</p>					
<p>既存の事業からステップアップする部分 (ステップアップ助成のみ)</p>							

<p>事業の目標</p>	<p>① 日中の居場所を探す女性が仮り暮らしを利用する。 (月の利用人数：10名程度)</p> <p>② 家出女性が仮り暮らしの家を利用する。 (月の利用人数：1～若干名)</p> <p>③ 家出女性が公的制度を利用し、家庭への復帰や自立を達成する。 (年単位で見た場合、1～若干名)</p> <p>④ 悩みを持つ男女が仮り暮らしに相談し、活路を見出す。 (月の利用人数：1～若干名)</p>
<p>今後の展望</p>	<p>居場所の提供および家出人保護を継続することで、居場所に困る女性が頼れる場所を作りたい。また、仮り暮らしを利用する女性は多くが「生きる意味」を見失っているため、仮り暮らしとかかわる中でそれを見出すきっかけを作りたい。</p>

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

区分	科目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 80,000	事業費の一部を団体の会計より拠出
	寄附金	¥ 840,000	正会員より寄付 (70,000円×12か月)
	仮り着らし利用料	¥ 25,000	500円×50人
	自己資金の合計額 (A)	¥ 925,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 1,025,000	

【支出】

区分	科目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	印刷製本費	¥ 10,000	チラシ印刷 1,500円 / 10部 × 5 パンフレット印刷 2,500円 / 100部 × 1
	消耗品費	¥ 85,000	参考図書 1冊3,500円 × 10冊 一般書籍 1冊500円 × 100冊
	食糧費	¥ 36,000	利用者の軽食費用 3,000円×12か月
	通信運搬費	¥ 54,000	利用者の無線LAN使用料 4,500円×12か月
	対象経費の合計 (D)	¥ 185,000	
	(対象外) 経費	家賃	¥ 600,000
光熱水費		¥ 240,000	20,000円×12か月
その他経費の合計額 (E)		¥ 840,000	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 1,025,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 額の90%以内、自己資金 (A) 額が対象経費 (D) 額の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成
事業番号 15
スタート助成

歴史ある団体や地域企業と協働による地域発展事業

北小金ドリームプロジェクト

事業計画書

事業名	歴史ある団体や地域企業との協働による地域発展事業
団体名	北小金ドリームプロジェクト

事業概要 歴史ある団体や地域企業との協働による地域発展事業として、他市・他県にもアピールし、いつ来ても楽しい活気ある街づくりを目指すためのイベント等の開催。																												
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	松戸市は北小金のように重要文化財が駅の近くに点在する歴史ある街であり、古き良きところは残しつつ、新しいことを行うことによって、楽しい街だということを市内外にアピールし、ベッドタウンとしてだけではなく、子どもが成長した時に仕事をする場の選択肢としての松戸市にしていきたい。																											
事業の目的	北小金の既存団体と連携して、北小金の街の良さを在住者はもちろんのこと、松戸市の中でも検索ワード上位の東漸寺・本土寺がある古き良き北小金を他市・他県にもアピールしつつ、新しいイベントを行うことによって、あじさいや紅葉の時期だけでなく、年間を通じ訪れてもらえる楽しい街・活気ある街づくりを目指す。																											
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>①黄金クリスマスマーケット開催 「黄金イルミネーション」連動企画して、北小金駅南口の AEON 入口前デッキに北小金近隣人気店舗のブースを出して、小金の PR を行う。</p> <p>②ハロウィンイベント開催 AEON 協力により、北小金周辺店舗でお菓子を用意して子ども達に配布したり、北小金駅南口の AEON 入口前デッキで子ども達の仮装などの披露イベントを行う。仮装時には地元の学生や協力したい若者によりメイクをしてもらい、若者にも街づくりの意識をもってもらおう。</p> <p>③リーフレットの発行・配布 小金の街の観光スポット以外にも店舗の紹介リーフレットを作成・配布する。</p> <p>2 スケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4～6</td> <td>リーフレット発行・配布</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8～10</td> <td>〃</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8～9</td> <td>ハロウィンイベント準備</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ハロウィンイベント開催</td> <td>北小金駅前</td> </tr> <tr> <td>8～10</td> <td>イルミネーション準備</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11～12</td> <td>イルミネーション</td> <td>北小金駅前</td> </tr> <tr> <td>8～11</td> <td>クリスマスイベント準備</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>クリスマスイベント開催</td> <td>北小金駅前</td> </tr> </tbody> </table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4～6	リーフレット発行・配布		8～10	〃		8～9	ハロウィンイベント準備		10	ハロウィンイベント開催	北小金駅前	8～10	イルミネーション準備		11～12	イルミネーション	北小金駅前	8～11	クリスマスイベント準備		12	クリスマスイベント開催	北小金駅前
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など																										
4～6	リーフレット発行・配布																											
8～10	〃																											
8～9	ハロウィンイベント準備																											
10	ハロウィンイベント開催	北小金駅前																										
8～10	イルミネーション準備																											
11～12	イルミネーション	北小金駅前																										
8～11	クリスマスイベント準備																											
12	クリスマスイベント開催	北小金駅前																										

<p>既存の事業から ステップアップ する部分 (ステップアッ プ助成のみ)</p>	<p>スタート助成のため無し</p>
<p>事業の目標</p>	<p>他市に隣接している北小金だからこそ、イベントを通して人が集まる活気溢れる街にする。 ①クリスマスマーケット及びハロウィンイベントに延べ 1000 人の一般参加者を呼び込む ②SNS のフォロワー数を計 1000 人にする。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>①地域の商店会や企業とのコラボレーションでイベントに力を入れる事で、小金の街に人を呼び込み毎年楽しみに待っていてくれるようなイベント作りを目指す。また、小金の在住者だけではなく、他市・他県からもわざわざ来なくなる歴史あるものと新しいものの融合を目指していく。 ②地域の年長者との交流を深める事で、3世代交流的教育を次世代へ繋げ、どの世代でも住みやすい松戸市のイメージを高めていく。</p>

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 75,000	事業費の一部を団体の会計より拠出
	イベント出店料	¥ 120,000	③3,000×10ブース×2日=60,000 年2回
	リーフレット掲載料	¥ 90,000	①1,000×15=15,000 ③3,000×10=30,000 年2回
	自己資金の合計額 (A)	¥ 285,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 385,000	

【支出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	印刷製本費	¥ 100,000	ハロウィンイベント ⑤5×5000枚=25,000円 クリスマスイベント ⑤5×5000枚=25,000円 リーフレット ⑤5×5000枚×年2回=50,000円
	報償費	¥ 100,000	イベント時生演奏 50,000×年2回=100,000円
	保険料	¥ 13,000	イベント保険加入
	消耗品費	¥ 50,000	事務用品、コピー代、イベント時ごみ袋代等 10,000円 Tシャツ作成 ②2,000×20枚=40,000円
	賃用料	¥ 22,000	道路使用許可申請料 ②2,200×5ブース×年2回=22,000
		対象経費の合計 (D)	¥ 285,000
(その他経費)	備品購入費	¥ 100,000	イルミネーションライト購入及び土台作成
		その他経費の合計額 (E)	¥ 100,000
合計額 (F) = (D+E)		¥ 385,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成
事業番号 16
スタート助成

介護予防リーダーの育成と介護予防運動の普及事業

松戸リーダーズクラブ

事業計画書

事業名	介護予防リーダーの育成と介護予防運動の普及事業
団体名	松戸リーダーズクラブ

事業概要

介護予防リーダー養成講座を開講し、介護予防体操の知識・技能を習得する場を設ける。
 介護予防リーダーが介護予防体操を指導する場を整理し、派遣する。
 介護予防イベントを開催し、普及に努める。

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	松戸プロジェクトでは、プロボノワーカーを育成し地域包括ケアの都市型モデルを開発しようとしている。しかし、通いの場で行われている内容が地域住民のニーズにマッチしていないことや担い手の数や知識・技能不足という現状ある。地域住民主体の活動を発展させる上で、通いの場の開所や発展、または派遣され介護予防体操等を行う人材である介護予防リーダーが必要である。						
事業の目的	介護予防リーダー養成講習を実施し、介護予防リーダーを組織する。そのリーダーが地域住民へ介護予防体操を教えたり、通いの場を開所・発展させることで介護予防の場を整備すること。 介護予防イベントを行い、介護予防を普及すること。						
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>① 介護予防リーダー養成講座 介護予防運動の知識技能の習得を目指し、介護予防運動を指導できる人材または先頭に立って介護予防を普及できる人材を養成する。</p> <p>② ステップアップ講座 介護予防リーダーの中でより高度な実践指導を目指すための知識技能の習得を目指す。</p> <p>③ 介護予防体操 MAP の作成 地域の中で行われている体操（軽い運動の集まりも含む）を調査し、MAP としてまとめる。地域の活動に住民が参加しやすいきっかけをつくる。</p> <p>④ 介護予防イベントの実施 体力測定会やウォーキングイベント等、介護予防を普及させるイベントを開催する。</p> <p>2 スケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>体力測定イベント</td> <td>広報活動、チラシ等作成 構成員、会員 対象者：地域住民 場所：フィットネスガーデン馬橋</td> </tr> </tbody> </table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4	体力測定イベント	広報活動、チラシ等作成 構成員、会員 対象者：地域住民 場所：フィットネスガーデン馬橋
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など					
4	体力測定イベント	広報活動、チラシ等作成 構成員、会員 対象者：地域住民 場所：フィットネスガーデン馬橋					

	5	イベント報告会	構成員、会員 対象者：地域住民 場所：フィットネスガーデン馬橋
	6	リーダー研修会	構成員 対象者：介護予防リーダー 場所：フィットネスガーデン馬橋
	7	介護予防リーダー養成講座	構成員、外部講師（医療介護予防専門講師） 対象：地域住民 場所：フィットネスガーデン馬橋
	8	フォローアップ研修	構成員 対象：介護予防リーダー 場所：フィットネスガーデン馬橋
	9	ステップアップ講座	構成員 対象：介護予防リーダー 場所：フィットネスガーデン馬橋
	10	体力測定イベント	構成員、会員 対象者：地域住民 場所：フィットネスガーデン馬橋
	11	イベント報告会	構成員、会員 対象者：地域住民 場所：フィットネスガーデン馬橋
	12	リーダー研修会	構成員 対象者：介護予防リーダー 場所：フィットネスガーデン馬橋
	3	介護予防ウォーキングイベント	構成員、会員 対象者：地域住民 場所：21世紀の森公園
事業の目標	<p>① 介護予防体操を普及する高齢者が増える 【介護予防リーダー講習会受講者 20名】【ステップアップ講座 15名】</p> <p>② 介護予防に関心を持つ地域住民が増える 【体力測定イベントボランティア 10名・参加者 50名】 【介護予防ウォーキングイベントボランティア 10名・参加者 30名】</p>		
今後の展望	<p>① 通いの場、元気応援くらぶ、地域包括支援センター主催の介護予防体操に介護予防リーダーを派遣し介護予防体操の場の充実と人材の確保に貢献する。</p> <p>② 地域住民の介護予防への興味関心や意識が高まり、イベント参加者や自主的に地域活動をする高齢者が増える。</p> <p>③ 介護予防体操 MAP により、地域の活動が明確になり高齢者が参加しやすくなる。地域住民のつながりが強くなり、「高齢者の単独世帯の増加」「介護の長期化」「介護する側の高齢化」の問題解決の一步を目指す。</p>		

事業の予算概要(令和2年度)

【収入】

(単位：円)

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	講習会参加・会員登録料	¥ 17,500	500円×35名
	団体拠出金	¥ 70,000	事業費の一部を団体にて拠出
	寄付金	¥ 2,000	NPO法人一歩一歩より2000円の寄付
	自己資金の合計額 (A)	¥ 89,500	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 189,500	

【支出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	印刷製本費	¥ 13,500	ポスター印刷代50円×270部
	印刷製本費	¥ 35,500	資料作成 印刷代10円×3550枚
	使用料	¥ 23,500	会場費500円×47時間
	報償費	¥ 12,000	外部講師派遣料3000円×2名×2回
	消耗品費	¥ 40,000	介護予防啓もう促進物100円×200個×2回
	消耗品費	¥ 10,000	介護予防イベントのぼり2500円×4本
	食糧費	¥ 19,000	参加者の飲み物100円×延べ190名分
対象経費の合計 (D)		¥ 153,500	
(その他経費) 対象外)	携帯電話通信費	¥ 36,000	携帯電話 3000円×12か月分
	その他経費の合計額 (E)	¥ 36,000	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 189,500	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成
事業番号 17
スタート助成

野良猫捕獲と不妊手術の悩み解消！
地域猫スタート相談会事業

松戸地域猫スタートサポート

事業計画書

事業名	野良猫捕獲と不妊手術の悩み解消！ 地域猫スタート相談会事業
団体名	松戸地域猫スタートサポート

事業概要 飼い主のいない屋外猫を増やさない為に捕獲や手術可能な動物病院の情報、そして活動中の悩み相談会などを開催し、外部経験者を招いて話を聞いて学び、市民の皆がボランティア精神を持って松戸市内を安心して安全な住みやすい街づくりを目指す。	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<p>野良猫に不妊手術を行い、元にいた場所に戻した後は地域住民が餌やり・トイレ掃除のルールを決めて世話し、一代限りでの命をまっとうさせる『地域猫活動』。</p> <p>猫のトラブルが減るため全国で行われ、松戸市も推進中である。</p> <p>ようやく少しずつ進み始めたが、まだまだ周知が行き届かない、そして次の問題も浮上している。</p> <p>「捕獲器が無い・・・」</p> <p>「野良猫の捕獲の仕方がわからない・・・」</p> <p>捕獲器は千葉県の保健所や動物病院で借りられるが台数が少なく、しかも車の無い市民には困難で、また野良猫捕獲という不慣れな行為に疲れ、地域猫活動自体を諦めてしまう人も数多い。</p> <p>野良猫捕獲経験者もまだまだ少なく、せっかく地域猫活動に興味を持って、一人で悩み開始時点でつまずく人の支援が大きな課題となっている。</p>
事業の目的	<p>「地域猫活動」開始に不可欠な「野良猫の捕獲」「不妊手術」の疑問や悩み、不安そして孤独感を取り除き、スムーズに地域猫活動ができるように市民の皆さんの助けになり活動して下さる人を増やす。</p> <p>その結果、活動実践者が増えて野良猫と猫をめぐる住民トラブルが減る事。また、活動者同士のつながりを大切にする事で、より積極的に外部と接触するようになり、精神面の充足感も得られることを期待する。</p>
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>野良猫捕獲と不妊手術の悩み解消！地域猫スタート相談会</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域猫活動開始に不可欠の「野良猫捕獲と不妊手術」に関する疑問、不安、孤独感を解消し、地域猫活動に踏み切る力を得てもらう。 高齢者の飼っている猫の相談や悩み相談。 <p>〈相談会内容〉</p> <p>【捕獲】</p> <ul style="list-style-type: none"> 捕獲器 借りられる場所、使用方法、猫を捕獲しやすい場所と餌。 地域猫成功の秘訣は仲間作り、ご近所の協力を得る方法など。 <p>【手術】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・「野良猫不妊手術」を実際に行える動物病院と行わない動物病院。 ・松戸市で利用可能な制度 利用方法など ・野良猫捕獲から搬入そして退院後のまで なんでも Q&A など <p>【お悩み相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人での活動での限界。 ・自ら活動が出来ない場合。 ・高齢者向けの飼育されているペットの相談や今後の飼育計画など。 <p>【外部経験者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2ヶ月に1度、外部の地域猫ボランティア経験者や団体の代表の方からの講義。 <p>〈郵便物発送〉</p> <p>相談会のお知らせを定形郵便で希望者、関係者等へ発送。</p> <p>2 スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="443 801 1401 1249"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>随時</td> <td>お知らせ発送</td> <td>宛先リストアップ、確定 発送対象：希望者、関係者等</td> </tr> <tr> <td>4月~3月</td> <td>周知活動（12回）</td> <td>チラシ作成、配布</td> </tr> <tr> <td>4月~3月</td> <td>地域猫相談会（12回）</td> <td>体制：3名 対象：松戸市民 場所：公共施設（市民会館、市民センター等）</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td>ふりかえり、アンケート集計</td> <td>集計対象：これまでの参加者</td> </tr> </tbody> </table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	随時	お知らせ発送	宛先リストアップ、確定 発送対象：希望者、関係者等	4月~3月	周知活動（12回）	チラシ作成、配布	4月~3月	地域猫相談会（12回）	体制：3名 対象：松戸市民 場所：公共施設（市民会館、市民センター等）	3月	ふりかえり、アンケート集計	集計対象：これまでの参加者
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など														
随時	お知らせ発送	宛先リストアップ、確定 発送対象：希望者、関係者等														
4月~3月	周知活動（12回）	チラシ作成、配布														
4月~3月	地域猫相談会（12回）	体制：3名 対象：松戸市民 場所：公共施設（市民会館、市民センター等）														
3月	ふりかえり、アンケート集計	集計対象：これまでの参加者														
<p>既存の事業からステップアップする部分 (ステップアップ助成のみ)</p>																
<p>事業の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談会参加人数延べ100名以上。 ・アンケートで「地域猫の理解が深まった」を80%以上。 															
<p>今後の展望</p>	<p>相談会の参加をきっかけに、地域猫活動の実践者を増やす事で、より多くの市民に役立つ情報を共有し、実践につなげてもらいたい。</p>															

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

区分	科 目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 64,056	対象事業費の一部及び対象外経費を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 64,056	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 164,056	

【支出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	使用料	¥ 29,260	・会議室 220円*4時間*12回 ・DVD上映権使用料18700円
	報償費	¥ 30,000	・外部経験者謝礼 5000円*6
	印刷製本費	¥ 41,316	・チラシ印刷費 (両面カラー) 6886円*6回 (3000枚*6回)
	消耗品費	¥ 8,000	・OA用紙・インク代・紙コップ・紙皿・ペン・DVD
	食糧費	¥ 18,000	・参加者用茶菓子1000円*12回・講師のお弁当・お水1000円*6回
	通信費	¥ 9,400	・定形郵便 (50g以内) 94円*100通
	対象経費の合計 (D)		¥ 135,976
(対象外)	交通費	¥ 10,080	構成員交通費 280*3人*12回
	食糧費	¥ 18,000	構成員昼食代 500*3人*12回
	その他経費の合計額 (E)		¥ 28,080
合計額 (F) = (D+E)		¥ 164,056	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 額の90%以内、自己資金 (A) 額が対象経費 (D) 額の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成

事業番号 18

ステップアップ助成

ギャンブル依存症予防啓発事業

公益社団法人ギャンブル依存症問題を考える会

事業計画書

事業名	ギャンブル依存症予防啓発事業
団体名	公益社団法人ギャンブル依存症問題を考える会

事業概要 ギャンブル依存症を広く知ってもらうため、①依存症を治療している医師による基礎知識についての講演、②当事者による体験談、③当代表による家族支援についての現状報告、以上の内容でセミナーを実施する	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<ul style="list-style-type: none"> ・松戸市には、多くの大学や専門学校等の教育機関があり、将来的にも社会を担う人材が多く存在している都市といえる。一方でギャンブル依存症が身近で、誰でもなり得る病気であることがあまり知られていない。 また、国内いくつかの都市がカジノ誘致に乗り出していることに伴い、「ギャンブル依存症」という言葉が一般の人に広く知られるようになったが、正しく理解されていないのが現状である。 ・健康都市連合に加盟し、市民の健康問題に前向きに取り組んでいる松戸市にとって、こころの健康へのアプローチも欠かせない。ギャンブル依存症がWHOで認定されている疾患であり、現在、国内の患者数が約300万人いるといわれている中、この病気について広く市民に理解してもらうことは非常に有意義である。この病気についての情報は、市民のこころの健康にとっても役に立つ情報であると思われる。 ・実際のギャンブル場（松戸競輪）やパチンコ・パチスロなどギャンブル性の高い遊技施設も多く抱えている松戸市内で、ギャンブルの問題で苦しんでいる市民が多数存在する可能性がある。
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ギャンブル依存症の正しい理解、治療法、および様々な問題の解決策を広めること。病気に対する偏見等について広く市民に情報提供し、予防につなげること。 ・実際にギャンブルの問題を抱えている当事者や家族に向けて、正しい対処法や相談会等の問題の解決につながる情報を提供し、支援につなげること。 ・自治体職員や医療従事者との連携の強化を図ること。
事業内容	<p>1. 事業内容</p> <p>2020年度中に松戸市内でセミナーを開催する（日時、タイトル等は未定）</p> <p>①医師による講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・依存症を専門に治療している医師をお招きし、依存症の基礎知識、および治療法について講演していただく <p>②当事者による体験談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年にフリーで芸能活動を再開した高知東生氏をお招きし、依存症当事者としての体験を語っていただく。 <p>高知氏は2016年、薬物所持で逮捕された。その後、依存症者の回復に効果がある12ステッププログラムを体験し、薬物依存から回復している。氏はギャンブル依存症者ではないが、各種の依存症者に共通して用いられるプログラムを体験し、回復した依存症者として、その体験談は依存症の問題解</p>

	<p>決に向けて多くの示唆にとんでいる。</p> <p>③当事者・家族支援の現状報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当代表 田中 紀子が、依存症当事者だけでなく依存症者に巻き込まれて苦しんでいる家族やパートナー、知人をどう支援しているか、当会の活動内容を紹介する。 <p>2. スケジュール</p> <p>4か月前・・・会場の確保（市民劇場ホールを想定） 出演者の日程調整。2020年4月の土曜日か日曜日、午後（13：30～16：30頃）の開催を希望。</p> <p>3か月前・・・配布資料の準備 チラシ作成、印刷</p> <p>2か月前・・・広報活動（チラシや資料を公共施設や教育施設へ配架依頼）～前日</p> <p>実施日・・・ギャンブル依存症セミナー開催 参加者へアンケートの実施</p> <p>実施後・・・振り返り アンケート集計と分析 報告</p>
<p>既存の事業からステップアップする部分 （ステップアップ助成のみ）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまであまりセミナーを実施してこなかった、千葉県北西部地域でセミナーを開催することにより、ギャンブル依存症の予防啓発をより広めることができる。
<p>事業の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの市民に、ギャンブル依存症についての正しい知識・治療法、予防法について啓発する。（150名以上の一般参加者を集める） ・ 参加者にアンケートを実施、参加者の半数以上から「ギャンブル依存症について理解が深まった」という評価をいただく。 ・ ギャンブル依存症は、誰もがなり得る病気であることを多くの人に知らせ、ギャンブルの問題を抱えた人への誤解や偏見を取り除いてもらう。また、一度発症しても、治療や回復の手立てがあることを理解してもらう。 ・ ギャンブル依存症について学ぶことにより、自身や周りの親しい人のギャンブルの問題に気付いた人が、問題を解決するための行動をとることができる。
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ギャンブル依存症を発症し、それに伴う金銭等の問題を抱え、誰にも言えずに苦しんでいる当事者や家族が、問題解決のために当事者の自助グループ、家族の自助グループ、家族会、家族相談会等に参加することができる。 ・ ギャンブル依存症についてより多くの人々が理解し、実際に苦しんでいる患者や家族を社会全体で見守り、支援できる。 ・ 自治体の保健所や社会福祉協議会の支援者の方たちに、我々の相談会や各種の自助グループを紹介していただく等の連携をとる。

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

区分	科目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 57,000	事業費の一部を団体会計より支出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 57,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 243,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 300,000	

【支出】

区分	科目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 80,000	外部講師謝礼 (医師30000円、高知氏 50000円)
	食糧費	¥ 500	講師お茶代 (3名分)
	消耗品費	¥ 5,500	筆記用具、文房具 (セロテープ、ガムテープ、フォチキス針等)
	印刷製本費	¥ 35,000	チラシ作成費 (1000枚・10000円)、講師レジュメ (350部×2冊・20000円) アンケート作成費 (350部・5000円)
		¥ 99,000	配布資料印刷代 (各1000冊) うちの親はギャンブル依存症35000円、知ろうギャンブル依存症19000円、 ギャンブル依存症家族向けハンドブック (150冊、13000円) 配布チラシ印刷代 (5種類・各1000枚) 32000円
	使用料	¥ 25,000	会場 (市民劇場) 使用料、音響機材使用料
	通信費	¥ 25,000	荷物送料5200円、レターパック19800円 (360円×55か所)
対象経費の合計 (D)		¥ 270,000	
(その他経費)	運営スタッフ交通費	¥ 10,000	1000円×10名
	内部講師日当	¥ 20,000	
	その他経費の合計額 (E)	¥ 30,000	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 300,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成
事業番号 19
スタート助成

みんなで育て、みんなで食べる
沿道での食べられる景観づくり事業

EDIBLE WAY (エディブルウェイ) プロジェクトチーム

事業計画書

事業名	みんなで育て、みんなで食べる 沿道での食べられる景観づくり事業
団体名	EDIBLE WAY (エディブルウェイ) プロジェクトチーム

事業概要

沿道の住宅や店舗前のスペースで、野菜やハーブなど食べられる植物を育てる「食べられる景観」づくりをし、収穫物を使った共食活動やものづくり活動を行うことで、住民の交流のきっかけづくりや関係構築を図る。(98字)

取り組もうとする松戸市のテーマ(課題)

近年、核家族化、単身世帯の増加、生活スタイルの多様化などから、近所づきあいなど、生活環境での交流の機会が減少しています。また、松戸市でも高齢者の単身世帯が増加しており、社会的孤立は、課題となっています。

私たちは、コミュニケーションを促し、コミュニティの形成に寄与するとされる「食べられる景観」づくりと、育てた植物を使った「食」やものづくりの活動を媒介に、人と人がつながるきっかけづくりに取り組みます。

沿道での園芸活動は、挨拶程度のコミュニケーションを生み出し、これまで知らなかった人同士が顔の見えるご近所さん同士になり、また、一緒に食べる、つくる活動を通じてさらなる交流が生まれることで、いざという時に支え合える地域のネットワークの構築に寄与できると考えます。

事業の目的

野菜やハーブを用いたユニークな景観づくりと沿道でのコミュニケーション機会の創出から、日常的に挨拶できる近所づきあいを増やすこと。また、育てた植物を使ったものづくりや共食活動を通じ、地域環境を学ぶ機会や、多世代での交流の機会を作ることを目的としています。これにより、地域での人と人、人と緑のつながりをつくることで、地域のネットワークを構築し、安心して楽しく暮らす地域づくりを目指します。

事業内容

- 1 事業内容
 - (1) プランターへ苗植え講座開催と植え付け活動 (4-5月・9-10月)
 - ・園芸知識のある会員と学生会員が講師となり、苗の植え方講座を開き、プランター栽培をする EDIBLE WAY (EW) 参加者みんなで、野菜の育て方を学ぶ。
 - ・学生メンバーがサポートし、プランターの苗植え作業を進める。
 - (2) 子どもと一緒にクラフト・アートワークショップの開催
 - ・アートの知識がある会員が講師となり、子ども会と協力し、プランターに付けるサインを作るワークショップ(6月)、ハーブせっけん作り(11月)を開催し、ものづくりを通じた学びの場、交流の場を設ける。
 - ・お手製のサインを飾ることや、ものづくりを通して、子どもたちが、活動を知り、地域の環境や景観を学ぶことで、地域愛着を持ってもらえるようにする。また、プランターへ目が行き届くようにし、イタズラ防止を図る。
 - (3) たくさん育つハーブペーストづくりやハーブティ講座(7・12月)
 - ・知識がある会員が講師となり、大人向けに植物を活用した講座を行い、ハーブの使い方、楽しみ方を学ぶことで、活動への意欲向上と交流を進める。
 - (4) みんなで食べる収穫祭 (8・1月)
 - ・各設置場所での収穫物を持ち寄り、地域住民らと一緒に調理し、食べるこ

とで、幅広い世代の交流や、つながり作りを図る。
 (5) 地域住民へ報告会を開催し、みんなで振り返りをし、次年度の目標をたて、新規参加者の巻き込みを図り、地域の活動として定着を目指す。

2 スケジュール

実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4-5月・ 9-10月	講座準備、告知、新規参加者・学生メンバー募集、 (1)苗植え講座、植え付け作業	①実施体制：学生会員を中心に会員有志と企画運営。②対象：EW参加者。③場所：松戸三丁目東自治会館または、千葉大学学生ホール
6月・ 11月	(2)クラフト・アートワークショップ開催	①学生会員・会員で企画運営。②EW参加者、地域の小学生。③自治会館
7月・ 12月	(3)ハーブを楽しむ講座開催	①学生会員・会員で企画運営。②EW参加者、地域住民。③自治会館
8月・ 1月	(4)みんなで食べる収穫祭	①学生会員・会員で企画運営。②EW参加者、地域住民。③自治会館
2月	振り返り・レポート作成	①学生会員・会員。②会員。
3月	(5)地域での報告会	①学生会員・会員で企画運営。②EW参加者、地域住民。③自治会館

各月のスケジュール以外に、毎月・1回：プランターの見回り・管理活動（①学生会員・会員有志、②EW参加者、③プランター設置場所）、千葉大学学生有志グループみどりの回廊ワーキンググループが発行する瓦版への記事掲載（①学生会員、②地域住民、③回覧板で閲覧）を行います。

既存の事業からステップアップする部分

事業の目標

- ・新しい参加者を募り、プランターの設置場所を増やし、沿道での緑のつながりが、より見えるようにする。（新規25箇所・50個プランター目標）
- ・学生と住民が協働する組織作りを行い、月1回の見回り・管理活動を定着する。プランターの植物の美観を保ち、収穫量を上げることを目指す。
- ・植物を用いたイベントの開催を行い、(6回・(2)、(3)、(4)は、各15人参加目標) 学びや交流の場づくりを通して、活動を継続するための知識共有や組織づくりを進める。
- ・年度の最後に、地域住民全体へ1年の活動報告（目標50人参加）を行い、意見交換、新規参加者を募集し、より良い地域活動の継続を目指す。
- ・毎月発行する瓦版へ活動報告を掲載し、イベントに参加しなかった人へも活動内容を周知し、地域の皆さんに賛同いただき、参加したいなと思っていただけるように、情報発信にも力を入れる。

今後の展望

- ・食べられる景観づくりを地域の景観、活動として定着させる
- ・食べられる景観や植物を活用した活動が、地域の文化として根ざし、一人一人が景観づくりに参加できる取り組みに育つようにしたい。
- ・植物を活用した活動を定期的、継続的なイベントとして定着させる
- ・イベントの企画運営へも参加者や住民が積極的に参加できるようにしたい。
- ・2019年8月に閉鎖した同地域のコミュニティガーデンの再生

今後の目標として、担い手不足から閉鎖に至ったコミュニティガーデンの再生を視野に入れる。

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

区分	科目	予算額	積算内訳
団体	イベント(WS・講座・収穫祭)参加費	¥ 18,000	(200円×15人) 6回開催 (クラフト・アートWS×2、ハーブを楽しむ講座×2、みんなで食べる収穫祭×2)
	団体提出金	¥ 13,500	対象事業費の一部及び対象経費を団体の会計より提出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 31,500	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 131,500	

【支出】

区分	科目	予算額	積算内訳
	消耗品費	¥ 106,000	<ul style="list-style-type: none"> ・フェルトプランター 500円×50 25000円 ・堆肥20L20袋セット 15000円×2 30000円 ・野菜苗 100円×80 8000円 ・ハーブ苗 300円×50 15000円 ・タネ 300円×20 6000円 【クラフト・アートWS(サイン作り/6月)】 ・素材布 200円×5m 1000円 ・染料 3000円【アート・クラフトWS(せっけんづくり/11月)】 ・苛性ソーダ 1個 1,000円 ・ココナッツオイル32オンス 2個 4,000円 【ハーブを楽しむ講座(7・11月)】 ・調味料一式(ハーブペースト作りに使用) 1000円 【みんなで食べる収穫祭(8・1月)】 ・食材費 6,000円×2回 12,000
	使用料	¥ 12,000	・自治会館使用料 2000円×6
	食糧費	¥ 13,500	・参加者お茶代 (150×15人) ×6回
	対象経費の合計 (D)	¥ 131,500	
	その他経費の合計額 (E)	¥ 0	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 131,500	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成
事業番号 20
スタート助成

生活困窮者の支援事業

ワークライフサポート松戸

事業計画書

事業名	生活困窮者の支援事業
団体名	ワークライフサポート松戸

事業概要 生活困窮者にならないように失業に伴う生活の危機を支援していく。具体的には、退職及び退職後の会社との連絡支援、雇用保険の効果的な活用支援、社会福祉協議会による失業者向け融資の活用支援、弁護士や労働組合の活用方法の支援、再就職支援などを行う	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	解雇や失業によって生活費がなくなってしまう人は、様々な支援を必要としている。そうした人々向けに様々な行政メニューや支援機関があるものの、それらを有効に利用することは難しい現状がある。 具体的な課題 ① 行政の支援メニュー自体が知られていない。 ② 行政支援メニューの要件を満たせず利用できない。 ③ 支援する側の都合が優先され、結果、支援が歪んでしまう。 ④ 困難に立ち向かう多大なエネルギーを求められ利用を諦めることになる。 そうした問題を軽減するための支援を行う。
事業の目的	失業した人がまずは生活困窮者にならないように支援し、ダメージが大きく生活困窮者となってしまった場合、その状態から焦らず早く脱出することを支援する。
事業内容	1 事業内容 ① ホームページの開設（2019年度の目標） ホームページは、内容は、活動内容、相談方法、相談会の予定日時、会の連絡先などを掲載する。スマートフォン・タブレット端末に適した表示形式としアクセスしやすいものとする。 ② 相談会の実施（隔月） 相談会の次第：あいさつ（会の取り組み紹介5分、相談の進め方の説明5分）、即、相談に入り、会の会員（相談員）による来場した相談者の話の傾聴（困っていることは何かを聞く）を始める。この対話は1時間を一区切りとする。次の段階、何らかの解決策のアドバイスを進めるケースは進める。 ③ 相談の随時受付、支援実施 パンフレットやホームページに記載した電話、メール等により随時相談を受け付ける。当会会員の都合と相談者の都合を合わせ適宜、相談、支援に取り組む。 ④ 切手代、電話、ファクス利用の具体例としては、退職希望の相談者が退職の意思を会社に伝える文書を送ること。電話問い合わせし、ファクスで可能との会社の回答ならファクスする。

	2 スケジュール		
	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
	5月	相談会、パンフレット完成	相談会会場：松戸市勤労福祉会館 (以下同)
	7月	相談会、ホームページ開設	同上
	9月	相談会	同上
	11月	同上	同上
	1月	同上	同上
	3月	同上	同上
	随時	相談の受付、支援の実施	電話、メール等
	4月	通常総会	
既存の事業から ステップアップ する部分 (ステップアップ 助成のみ)			
事業の目標	① 生活困窮者5名の支援に着手する。		
今後の展望	<p>松戸市が取り組んでいる自立相談支援事業（生活困窮者対象）における失業者への生活費融資（社協の）を例にとると、決定権は、千葉県社会福祉協議会にあり、松戸市社協は受付窓口には過ぎない。</p> <p>松戸社協が申請しても県社協は融資否決することが多いことから、松戸社協は、生活困窮者を、生活保護窓口へ誘導するようになっており、結果、生活保護利用者を増加させていると推察される。</p> <p>生活保護では、自宅や車の売却を強いるなど、利用しようとする者をさらに追い詰めるルールもある。社協の生活資金融資も住宅ローンを対象外とするなど、福祉現場における、資産敵視に近いルールがあり、そうした人々を制度利用から排除している。国策として広く国民に住宅ローンによる住宅取得を優遇してきた歴史的経緯から考えても、見直す必要があると思われる。</p> <p>様々なルールがあるが、それらが本当に市民の役に立つものなのか、再検証する必要がある。社協の融資困難から生活保護への誘導が行われていることの方が、行政支出は増大すると思われる。むしろ、自立の芽を摘み取ってはいないか、検証する必要もある。</p> <p>支援の現場から、事実を一つ一つ積み上げ、より良い松戸市の生活環境を作っていきたい。</p>		

事業の予算概要

【収入】

(単位:円)

区分	科目	予算額	積算内訳
団体	寄付金	¥ 120,000	会員からの寄付金
	自己資金の合計額 (A)	¥ 120,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 99,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 219,000	

【支出】

区分	科目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	委託費	¥ 50,000	ホームページ、パンレットのデザイン料
	印刷製本費	¥ 30,000	パンフレット印刷 1,000部
	使用料及び賃借料	¥ 18,000	相談会会場 3,000円×6回
	消耗品費	¥ 4,800	ファックス受信用 (印刷用紙、インクリボン) 等
	通信費	¥ 4,700	切手代 94円×50通 (会社や行政機関、相談者への書類送付のため。相談内容や件数によって変動します。)
		¥ 2,500	ファックス送信代金 50円×50枚
対象経費の合計 (D)		¥ 110,000	
(その他経費 対象外)	食糧費	¥ 60,000	
	交通費	¥ 59,000	
	その他経費の合計額 (E)	¥ 119,000	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 229,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成
事業番号 21
スタート助成

音楽活動による街の活性化事業

松戸音楽活動同好会

事業計画書

事業名	音楽活動による街の活性化事業
団体名	松戸音楽活動同好会

事業概要 福祉施設訪問音楽会や音楽イベント（サポセン音楽祭・松音ハッピーコンサート・松音サロン）等を企画・運営し、元気と活力を届ける活動をする。音楽活動を通して明るく楽しい元気な街作りを行い、音楽による生きがい作り・健康作りに寄与する。	
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	本年9月15日総務省によると、全国で65歳以上が3588万人で人口に占める割合は28.4%になり、この割合は今後も上昇し、2025年には30%、2040年には35.3%に達すると予測される。我が国は世界一の長寿国であり、100歳以上が7万人を越え今後更に増え続けると予測される。（出典 国立社会保障・人口問題研究所）松戸市の100歳以上の高齢者は、186人（本年9月1日松戸市による）で長寿・高齢化が進み、要介護認定者も増加し介護施設への入居者も増加している。独居（単身）・引き籠り高齢者も増加している。高齢者の孤独死問題がある。これらは高齢化社会において、避けて通ることのできない課題となっている。
事業の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者が安心して元気で楽しく過ごせる場、更に障がい者（児）も安全で生き生きと過ごせる場として音楽を楽しむ場を創り、一緒に音楽を楽しみ交流を深め、明るく楽しい元気な街にすること。 2. 福祉施設利用者や地域での引き籠り高齢者や障がい者の方達にも音楽を身近に楽しんで貰い、元気と活力を届けること。 3. 地域で音楽活動をしている仲間同士（子供達も含む）や参加者・来場者との交流を図る事により、繋がりが生まれ、精神面等の達成感や充実感をえること。
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 事業内容 企画運営事業と参加事業に分類し前者の企画運営事業を市民活動助成事業としての重点事業とする。後者の参加事業も事業を更に充実発展させる為の市民活動助成事業と位置付ける。 <ol style="list-style-type: none"> 1-1. 企画運営事業 <ol style="list-style-type: none"> ①音楽イベント等を主催し、市民及び出演者が音楽を楽しみ音楽を通して明るく元気な街にする。 ②音楽サロン等を主催し、音楽を楽しみ歌声で明るく元気な町会の一助とする。 ③高齢者や障がい者福祉施設等を訪問して音楽会（ピアノ演奏・楽器演奏・独唱・手話歌声・音楽体操・踊り等）を行い、利用者さんと一緒に歌い感動を共有し、笑顔があふれ元気になり生きる活力となる支援をする。 1-2. 参加事業 <ol style="list-style-type: none"> ①市内町会団体の歌声喫茶等のイベントに歌声指導・伴奏に参加して、楽しんで貰い元気な町会に寄与する。 ②市内の合唱団に講師として、歌唱指導・伴奏をして、団体の仲間作りに寄与し、生きがい作り・健康作りの支援をする。 ③市内音楽愛好家や愛好会の人たちとセッションを行い、音楽があふれる街にする。 ④市内の音楽イベントに出演参加し、達成感を味わい音楽の盛んな街にする。

2 スケジュール

2-1. 企画運営事業 (年間48回)

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
年間36回 (3回/月)	福祉施設訪問音楽会 利用者さんと一緒に歌う。 独唱・独奏・手話・踊り他	主催・利用者・介護施設
年間1回	ニコニコ交流音楽会	主催・障がい者等・公民館等
年間1回	サポセン音楽祭	主催・市民・サポートセンター
年間4回	ハッピーコンサート 公開講座(歌唱練習)含む	主催・市民・矢切公民館 同上
年間6回	松音サロン	主催・町会・町会公民館

2-2. 参加事業 (年間40回)

	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
年間15回	合唱団歌唱指導伴奏	合唱練習・高齢者・市民センター
毎月	やきり産直祭(雨天中止)	ピアノライブ・観光者・矢切の渡し
年間4回	町会主催歌声大会	合唱伴奏・市民・各市民センター
6月10月	町会主催音楽会	合唱伴奏・市民・各市民センター
10月11月	市民団体主催音楽会	合唱伴奏・市民・各市民センター
3月	川の歌コンサート	合唱伴奏・市民・市民劇場
年間6回	ピアノ演奏・合唱	セッション・音楽仲間・スタジオ
毎月	サロンわたしの歌伴奏	ボランティア・独老人・福祉会館

既存の事業からステップアップする部分※ステップアップ助成のみ

事業の目標

- 企画運営事業 (年間48回) 総計2,200名
 - 音楽イベント主催: 12回 【来場者】延べ800名
 - 福祉施設訪問音楽会: 36回 【参加者(利用者さん等)】延べ1,000名
 - 出演者・出演団体・音楽会運営者: 延べ400名
 - アンケート回収: 満足度 80%以上、今後の参加希望 80%以上
- 参加事業 (年間40回) 総計2,200名
 - 【来場者】延べ1,700名
 - 【参加者】延べ500名

今後の展望

- 活動場所を市内全域に広げ、また心身障がい者施設にも活動の場を広げ、より多くの市民に音楽を通して、より豊かな人生に貢献し健康寿命の延伸に繋げたい。
- 福祉施設訪問音楽会においても活動の主体がピアノ伴奏であり、活動の質的向上を目指すためにもピアノ伴奏技術の向上を図っていく。
- 引き籠り高齢者に対する事業も民生委員や関係者などと連携して活動の幅を広げ、松音サロンなどに参加して貰い、音楽に触れて音楽の素晴らしさを感じて貰う。
- 松戸音楽活動同好会の主な目的である音楽イベント主催の内容を充実させ、チャリティーコンサートの開催に繋げる。そして事業目的である「音楽活動による街の活性化」を図り、松戸市がますます住みよい街になるように音楽活動を通して貢献していきたい。

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

	科 目	金 額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 89,000	対象事業費の一部及び対象外経費を団体の会計より拠出
	施設より謝礼金	¥ 18,000	1,000×10+2,000×4
	サポセン音楽祭参加費	¥ 9,000	
	自己資金の合計額 (A)	¥ 116,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 216,000	

【支出】

	科 目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 40,000	外部講師謝礼 5,000×8回 コンサート音楽活動講師ピアノ伴奏歌唱指導
	消耗品費	¥ 20,000	キーボード音響機器 消耗品費 マイク4,000×2・その他ケーブル等消耗品12,000
		¥ 10,000	歌詞模造紙作成等 糊・補強テープ・補助用紙・マジック等
		¥ 37,000	事務用品・筆記用具 インク・用紙・コピー代等
	食糧費	¥ 12,000	講師水 200×8=1,600 講師昼食700×8=5,600 茶菓子代(景品用) 4,800
	印刷製本費	¥ 20,000	ポスターの制作外注代(周知用) 2円×10,000部(6回)
		¥ 10,000	配布物の印刷代 サポートセンター等 3,000部 (プログラム・アンケート・歌詞カード等)
	通信費	¥ 3,000	切手代等(周知用)
	使用料及び賃借料	¥ 8,000	会場使用料 会議室1,000×8
	対象経費の合計 (D)		¥ 160,000
その他経費	食糧費	¥ 9,900	会員の会合昼食代 550×18
	コンサート出演料	¥ 4,000	みらいフェスタ、川の歌コンサート、その他音楽会
	保険料	¥ 2,100	ボランティア保険料 350×6名
	交通費	¥ 40,000	会員の交通費
	その他経費の合計 (E)		¥ 56,000
合計額 (F) = (D+E)		¥ 216,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成
事業番号 22
スタート助成

アニメ・コスプレ・サブカルチャーで町おこし事業

ひみつきちエンターテイメント

事業計画書

事業名	アニメ・コスプレ・サブカルチャーで町おこし事業
団体名	ひみつきちエンターテイメント

事業概要 アニメ・コスプレ・サブカルチャーを用いた音楽活動(歌・ダンス)イベントを行い、地域と経済の活性化を図る。																									
取り組もうとする松戸市のテーマ(課題)	松戸市の主要な取り組みの中に、20代30代の働き盛りの若者をターゲットにした事業が少ない。(高齢者・子供にスポットを当てた事業が多い。) 市民活動に取り組む若年層が少ない。																								
事業の目的	今、世界的にも注目度が高い日本のアニメーション・コスプレ・サブカルチャーの文化を通じ、20代30代の若年層に松戸市に着目して頂き、地域社会の活性化・経済効果を図る。 私たちの活動を通じ20代30代の同志を募り、市民活動に興味を持って頂き事業が発展・継続し松戸市に貢献する事を目的とする。																								
事業内容	1 事業内容 音楽活動・イベント活動・松戸駅西口ステージでのライブイベントの開催。 2 スケジュール <table border="1" data-bbox="448 1319 1378 2101"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月</td> <td>ライブ活動3回</td> <td>音楽活動・お祭り</td> </tr> <tr> <td>5月</td> <td>ライブ活動3回</td> <td>音楽活動・お祭り</td> </tr> <tr> <td>6月</td> <td>ライブ活動4回 バーベキューイベント1回</td> <td>音楽活動・イベント</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>ライブ活動4回</td> <td>音楽活動・お祭り</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>ライブ活動3回 松戸花火大会イベント1回 松戸市コスプレイベント1回</td> <td>音楽活動・お祭り・イベント</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>ライブ活動5回 松戸駅西口デッキライブ1回</td> <td>音楽活動・お祭り</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>ライブ活動3回 ハロウィンイベント1回</td> <td>音楽活動・お祭り・イベント</td> </tr> </tbody> </table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4月	ライブ活動3回	音楽活動・お祭り	5月	ライブ活動3回	音楽活動・お祭り	6月	ライブ活動4回 バーベキューイベント1回	音楽活動・イベント	7月	ライブ活動4回	音楽活動・お祭り	8月	ライブ活動3回 松戸花火大会イベント1回 松戸市コスプレイベント1回	音楽活動・お祭り・イベント	9月	ライブ活動5回 松戸駅西口デッキライブ1回	音楽活動・お祭り	10月	ライブ活動3回 ハロウィンイベント1回	音楽活動・お祭り・イベント
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など																							
4月	ライブ活動3回	音楽活動・お祭り																							
5月	ライブ活動3回	音楽活動・お祭り																							
6月	ライブ活動4回 バーベキューイベント1回	音楽活動・イベント																							
7月	ライブ活動4回	音楽活動・お祭り																							
8月	ライブ活動3回 松戸花火大会イベント1回 松戸市コスプレイベント1回	音楽活動・お祭り・イベント																							
9月	ライブ活動5回 松戸駅西口デッキライブ1回	音楽活動・お祭り																							
10月	ライブ活動3回 ハロウィンイベント1回	音楽活動・お祭り・イベント																							

		松戸駅西口デッキライブ1回	
	11月	ライブ活動3回	音楽活動
	12月	ライブ活動3回 クリスマスイベント1回	音楽活動・イベント
	1月	ライブ活動2回	音楽活動
	2月	ライブ活動3回 バレンタインイベント1回	音楽活動・お祭り・イベント
	3月	ライブ活動3回 コスプレイベント1回	音楽活動・お祭り・イベント
既存の事業からステップアップする部分 (ステップアップ助成のみ)			
事業の目標	<p>その1 20代30代の若年層がこの活動に興味を持ち、団員(構成員)が10名を超える →団員(構成員)が増えることにより、活動集客と経済効果の増大に繋がる。</p> <p>その2 年間のライブ本数(音楽活動本数)とイベント本数の合計が40回以上になる。</p>		
今後の展望	<p>その1 松戸市の協働事業に参入する。</p> <p>その2 松戸市コンテンツ事業部・松戸観光協会・まちおこし事業部・松戸駅周辺活性化推進協議会などと、協働で事業を展開することによって、継続した活動と地域貢献ができる。</p>		

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

区分	科目	予算額	積算内訳
団体	団体繰出金	110,000円	事業費の一部を団体の会計から繰出。
	自己資金の合計額 (A)	110,000円	
市	市民活動助成金 (B)	100,000円	
合計額 (C) = (A+B)		210,000円	

【支出】

区分	科目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	使用料及び賃借料	94,000円	松戸駅西口ステージ使用料・47,000円×2回
		10,000円	イベント施設使用料・機材レンタル料
		51,840円	ダンススタジオレンタル料1回4,320円×12回
		5,040円	市民センター使用料1回420円×12回
	消耗品	20,000円	衣替え代ひとり4,000円×5名
	対象経費の合計 (D)	180,880円	
(その他経費 対象外)	交通費	10,000円	役員交通費
	食糧費	19,120円	お祭り・イベントの団員の食糧費
	その他経費の合計額 (E)	29,120円	
合計額 (F) = (D+E)		210,000円	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成
事業番号 23
スタート助成

伝統芸能の阿波踊りを通じて
世代間交流を深める事業

惣ノ風連

事業計画書

	事業名	伝統芸能の阿波踊りを通じて、世代間交流を深める事業							
	団体名	惣ノ風連							
事業概要									
<p>地域の子供から大人まで阿波踊りという伝統芸能を通して、多世代間の交流を深める。自分達の踊りを通して見ている観客に感動を与えられるよう、日々練習に取り組む。</p>									
取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<p>松戸市では子供から高齢者まで様々な人が暮らしているが、都市化に伴う近隣関係の希薄化や核家族化が進んでいる。以前のように近所の人達が助け合って地域の子供達を育てる機会がなく、多世代との交流の場がなくなっている。世代間の分断をなくし、地域と共に多世代で子供との関わりを増やす機会を作りたい。また、阿波踊りという日本の伝統芸能に触れる機会がなく認知度が低い為、伝統芸能の魅力や楽しさ、大切さを伝えていきたい。</p>								
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・子供達が多世代との交流の場を通じて、学校だけではない多様な価値観に触れる。 ・地域での交流が少ない大人達が阿波踊りに参加することで健康維持に貢献し、お祭りやイベントに参加する事で、楽しみや生きがいの一助となる事を目的とする。 ・阿波踊りという伝統芸能を、お祭りやイベントに参加し披露する事で、地域の人達に継承していく。 								
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>①合同練習と個人練習を定期的を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に魅力的な連と思って頂く為にも通常の合同練習だけでなく、個人練習の機会を増やす <p>②他連の指導者を招聘する、各個人の能力の更なる向上を目指す</p> <p>③地域のお祭りの参加</p> <p>地域のお祭りに参加し、自分達の活動を周知して頂く</p> <p>④ショッピングモールにて阿波踊りイベントを開催する</p> <p>地域の方々に活動を周知して頂く為にも、普段お祭りを観に行く機会のない方や子育て世代・高齢者に対して披露する場を増やし、阿波踊りの魅力を伝える。</p> <p>⑤学童保育・子供食堂の子供達と地域のお祭りに合同参加を企画・開催</p> <p>学校以外で交流のない子供に対し、地域の多世代の方との交流の場を作る。閉塞感のある子どもの学校以外での楽しみ場となり、阿波踊りという伝統芸能に小さい時から触れる機会を設ける。</p> <p>練習の機会を設けて阿波踊りを指導し、地域のお祭りに一緒に参加する</p> <p>⑥連員募集チラシを作製し、ショッピングモール・学童・子供食堂で配布。チラシ、ホームページにて活動をアピールし連員募集を行う</p> <p>2 スケジュール</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4～6月</td> <td>①合同／個人練習</td> <td>松戸三中／八小・エノモトハウス</td> </tr> </tbody> </table>			実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4～6月	①合同／個人練習	松戸三中／八小・エノモトハウス
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など							
4～6月	①合同／個人練習	松戸三中／八小・エノモトハウス							

		③さくらまつり ④⑥ショッピングモール での阿波踊りイベント ⑤⑥学童保育・こども食 堂へお祭り参加の提案	常盤平団地 テラスモール松戸 松戸市の学童保育・こども食堂を回 りニーズを把握する
	7月	①合同／個人練習 ⑤新松戸まつり	松戸三中／八小・エノモトハウス 新松戸中央公園
	8月	①合同／個人練習 ⑤小金宿まつり	松戸三中／八小・エノモトハウス 小金駅南口ロータリー
	9月	①合同／個人練習 ③松戸駅にぎやかし	松戸三中／八小・エノモトハウス 松戸駅西口デッキ
	10月	①合同／個人練習 ⑤松戸まつり	松戸三中／八小・エノモトハウス 松戸駅西口駅前通り
	11月	①合同／個人練習 ⑤社協ふれあい広場 ③八豊祭	松戸三中／八小・エノモトハウス 松戸三中 八ヶ崎小
	12～3月	①合同／個人練習 ②他連による練習指導 ④⑥ショッピングモール での阿波踊りイベント	松戸三中／八小・エノモトハウス 座・高円寺 テラスモール松戸
既存の事業から ステップアップ する部分			
事業の目標	<p>①地域における世代間交流の機会（練習の回数）を増やす 求心力を上げる為に、観覧者を感動させるような魅力的な踊り・演奏が できるようにする。 合同練習 36回/年、個人練習 12回/年</p> <p>②他連からの講師招聘 2回/年</p> <p>④ショッピングモールで阿波踊りイベント開催 2回/年 連員募集のチラシを50枚/回配布する</p> <p>⑤地域のお祭りに学童保育・こども食堂の児童の参加を成功させる。 阿波踊りに触れる機会を設け、魅力を伝える 松戸市の学童保育：11ヶ所、こども食堂：13ヶ所 新松戸まつり、小金宿まつり、松戸まつり、ふれあい広場 子供の参加者合計30名</p>		
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ショッピングモールでのイベントと学童保育・こども食堂のお祭り参加は 今後も企画し、継続させていく ・活動の場を増やし、連員を5人/年ずつ増員させる ・都内のお祭りの参加する機会を増やし、松戸市で発足した惣ノ風連の 阿波踊りの活動を広く周知して頂く（高円寺阿波踊りへの参加） ・松戸市在住の外国人の方々へ阿波踊りという日本の伝統芸能の魅力を発信 していく。交流の場を設ける 		

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

区分	科目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 103,780	対象事業の一部及び対象外経費を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 103,780	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 203,780	

【支出】

区分	科目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 20,000	他連の指導者への謝礼金 10,000円×2回
	消耗品費	¥ 85,200	ポリ袋 3,000円 (鳴り物用雨具) 子供用足袋 1,620円×30足=48,600円 うちわ代1,000円×30枚=30,000円 締太鼓用バチ2,000円、鉦用シモク1,600円
	印刷製本費	¥ 10,000	通員募集チラシ印刷代 5円×1000枚×2回
	使用料及び賃借料	¥ 22,000	エノモトハウス 使用料 1000円×12回=12,000円 テラスモール松戸 使用料5,000円×2回=10,000円
	保険料	¥ 12,000	1人50円×30人×お祭り8回
	対象経費の合計 (D)	¥ 149,200	
(対象外)	活動費	¥ 40,000	イベント参加費 (弁当代・車代)
	通信費	¥ 14,580	ホームページ サーバーレンタル代/年
	その他経費の合計額 (E)	¥ 54,580	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 203,780	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成
事業番号 24
ステップアップ助成

松戸市における災害支援の文化を創設する事業

特定非営利活動法人ディープデモクラシー・センター

事業計画書

事業名	松戸市における 災害支援の文化を創造する事業
団体名	特定非営利活動法人 ディープデモクラシー・センター

事業概要	市内で活動する市民活動団体・NPO や、地域の各団体の災害時における対応力をアップし、同時に、地域での災害時における多様な支援主体をコーディネートする力の獲得を目的とした連続講座を開催します。
------	--

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<p>令和元年台風 15 号は、県内に多大な被害を与え、長引く停電や断水、通信の切断など県民生活への計り知れない影響を残しました。幸いにも、松戸市内には大きな被害もありませんでしたが、もし台風の進路が西側に逸れていたとき、市民活動団体・NPO や地域の各団体は、きちんと災害と向き合い、地域で必要とされる支援にあたれたのでしょうか？</p> <p>自分ごととして考えたとき、やはり、意識の上でも、準備の上でも、市内の市民活動団体・NPO や地域の各団体の災害時における対応力が不足していることは間違いない事実でしょう。また、実際に被災したとき、支援に関わる多様な主体をコーディネートする力も同様に不足していることは否めません。</p>
事業の目的	5 回の講座と、5 回のワークショップにより、松戸市内で活動する市民活動団体・NPO、地域団体の方々、また、地域で活躍するソーシャルワーカーの方々の、日常の活動を拡大する意味での、災害対応力のスキルアップを目的とします。また、そのことを通して、市民の方々の災害対応力や受縁力のアップを目指し、同時に、平時における市民活動団体・NPO や、地域の各団体の有機的なネットワークの構築を目指します。
事業内容	<p>1 事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○講座 1 「災害に備えた地域のネットワークの創造（仮）」 講師・明城哲也さん（特定非営利活動法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク）【予定】 ○ワークショップ 1 「災害に備えた地域資源の洗い出し-1」 ○講座 2 「過去の災害地からまなぶ災害支援とは…（仮）」 講師・前原土武さん（災害 NGO 結代表）【予定】 ○ワークショップ 2 「災害に備えた地域資源の洗い出し-2」 ゲスト・ワークショップ 1 であがった関係機関より 2~3 名 （民生委員、社会福祉協議会、社会福祉法人、県職員、市職員など） ○講座 3 「災害ボランティアセンターについて学ぶ」 講師・天寺純香さん （公益社団法人 SL 災害ボランティアネットワーク 常務理事）【予定】 ○ワークショップ 3 「災害時要援護者（災害弱者）について考える」 ゲスト・松戸市危機管理課職員など

	<p>○講座4 「被災地支援のボランティア団体の活動に学ぶ」 講師・中島武志さん (特定非営利活動法人災害救援レスキューアシスト代表理事)【予定】</p> <p>○ワークショップ4「災害発生時に NPO・市民活動団体としてできる支援を学ぶ」 講師・中島武志さん (特定非営利活動法人災害救援レスキューアシスト代表理事)【予定】</p> <p>○講座5「災害発生時の情報の収集・活用・発信を考える」 講師・一般社団法人 情報支援レスキュー隊 (IT DART)【予定】</p> <p>○ワークショップ5 「災害時における NPO、市民活動団体の BCP (事業継続計画) のための無線通信を体験する」 講師・アイコム株式会社【予定】</p> <p>2 スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="464 763 1369 1016"> <thead> <tr> <th>実施月</th> <th>具体的な取り組み</th> <th>実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月～</td> <td>広報活動</td> <td>市内公共施設、プレスなど</td> </tr> <tr> <td>6月～ 8月</td> <td>講座と ワークショップ開催</td> <td>市内公共施設 (予定)</td> </tr> <tr> <td>9月～ 10月</td> <td>報告書作成</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4月～	広報活動	市内公共施設、プレスなど	6月～ 8月	講座と ワークショップ開催	市内公共施設 (予定)	9月～ 10月	報告書作成	
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など											
4月～	広報活動	市内公共施設、プレスなど											
6月～ 8月	講座と ワークショップ開催	市内公共施設 (予定)											
9月～ 10月	報告書作成												
<p>既存の事業から ステップアップ する部分 (ステップアップ 助成のみ)</p>	<p>これまで、ボランティアコーディネーター向けの支援として、災害時におけるボランティアコーディネーションのスキルアップ講座の開催や、千葉県災害ボランティアセンター連絡会での活動などで、災害時における市民活動団体・NPOのあり方に対する支援を行ってきました。台風15号の被害を受けた鴨川市にも当法人の事務所があることから、現在、各市の災害ボランティアセンターの支援にも当たっています。そのことを受け、今回はより実践的な、即戦力としての災害対応力の獲得をテーマに事業展開いたします。</p>												
<p>事業の目標</p>	<p>○講座、ワークショップへの参加団体数 = 25 ○講座、ワークショップへの参加人数=のべ300人</p> <p>○災害対応に関する理解の向上 = 参加者の80%で向上 ○今後、地域で防災の活動に関わっていきたい = 参加団体の70%で向上</p>												
<p>今後の展望</p>	<p>市内における市民活動団体・NPO、地域の各団体による、災害に限らず地域運営に関わるネットワークが構築され、有機的に情報や資源の交換が行われるようになることを目指します。</p>												

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

区分	科目	予算額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 57,000	事業費の一部を団体の会計より拠出
	講座参加料	¥ 100,000	¥500×20人×10回
	自己資金の合計額 (A)	¥ 157,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 300,000	
	合計額 (C) = (A+B)	¥ 457,000	

【支出】

区分	科目	予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 280,000	外部講師謝金 40,000円×7回
	印刷製本費	¥ 20,000	チラシ印刷外注 10円×2000枚
	消耗品費	¥ 22,000	ワークショップ資材 20,000円 (ブルーシート¥2000×8 ハウスバンド¥3000 文具1000円) 講座資料印用紙 2,000円
	委託料	¥ 10,000	チラシデザイン
	通信費	¥ 10,000	定形外郵便¥140×60 (施設)、ゆうメール¥200×8通
	対象経費の合計 (D)	¥ 342,000	
(対象外) 経費	講師交通費	¥ 65,000	
	食料費	¥ 25,000	当日スタッフの昼食代 500円×5人×10回
	交通費	¥ 25,000	当日スタッフの交通費 500円×5人×10回
	その他経費の合計額 (E)	¥ 115,000	
	合計額 (F) = (D+E)	¥ 457,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 額の90%以内、自己資金 (A) 額が対象経費 (D) 額の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成
事業番号 25
ステップアップ助成

笑劇で施設利用高齢者を元気にする事業

浅間台笑劇研究部

事業計画書

事業名	笑劇で施設利用高齢者を元気にする事業
団体名	浅間台笑劇研究部

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<p>松戸市総合計画基本構想で、全市民が生活に合わせた成長発達ができ、いつでも心のはりをもった豊かな人生を送れるように保健・医療・福祉の機会の拡充が謳われています。</p> <p>松戸市における要支援・要介護認定者総数は17,174名（2014年時点）であり、その方達の多くが市内の高齢者福祉施設で介護の提供を受けています。</p> <p>この施設での、質の高い介護等の提供等のハッキリとした対策と共に、こころの豊かさを増大させ、人生に潤いを与える精神的な働きかけの具現化も大きな課題です。</p>
事業の目的	<p>前述課題の具現化の為に、往々にして恒常化しやすい高齢者福祉施設利用の方々の日常生活の一時を、笑って頂き、楽しんで頂き、そして心にはりを持った豊かな生活を送る一助となるべく、当該施設で「笑劇」を演じることが事業の目的です。</p> <p>併せて、公演で福祉施設利用の方々の笑いと喜びを、私達部員が共有することも大きな目的です。</p>
事業内容	<p>1 事業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 古今東西のミュージカル・映画・歌舞伎等の名場面を研究する ② その名場面を選択して、トーン風に繋ぎ合わせて、脚本を制作する (1回/年のペースで制作) ③ 部員でキャスト（配役 コーラス）とスタッフ（演出 台本 音楽 美術）をシェアの上、練習を行い、舞台上で演じられるまでにスキルを高める ④ 並行して、必要な大道具・小道具・衣装を製作する ⑤ 主に松戸市社協ボランティアセンターを通じて松戸市内の高齢者福祉施設に演劇のPRを行い、出演依頼を募る ⑥ 希望ある高齢者福祉施設で、公演を行う ターゲット：1回/月コミットメント：1回/2カ月 ⑦ 一般の劇場に施設利用高齢者に多数来場いただき、そこで笑劇公演を行う ⑧ 公演ごとに反省会を行い、観客の満足度・反省点を明確にして次回公演にフィードバックする ⑨ 高齢者福祉施設での公演の更なる充実の為に、笑劇以外のプログラム（出し物）を開発し、笑劇の前座として演じる (お笑いヨガ・パルナート・詩吟等)

2 スケジュール		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																					
		月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月																					
①	定期総会	●																																
②	新プログラム作成	●	●																															
③	道具・衣装作成	●	●																															
④	定例会 練習	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																					
⑤	施設への公演 PR	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																					
⑥	高齢者福祉施設公演	●	△	●	△	●	△	●	△	●	△	●	△																					
⑦	一般劇場公演							※	※	※	●																							
⑧	反省と活動計画												●																					
(凡例) ●：必ず実施 △：出来る限り実施 ※：集客活動																																		
既存の事業からステップアップする部分 ※ステップアップ助成のみ	施設利用高齢者に一度に数多く鑑賞頂くことと、部員の演技スキル向上の為に以下の内容で一般公演を行う ① 場所 松戸市市民劇場又は森のホール 21 ② 時期 2021年1月（日付は抽選後） ③ 対象観客 施設利用高齢者 ④ 内容 笑劇2作・・・パルノアート・ユース（応援出演）・ばか面（応援出演）2時間																																	
事業の目標	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業の目標</th><th>評価対象</th><th>数値目標 (2021年度)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">① 高齢者福祉施設公演</td><td>公演回数</td><td>10回以上、ターゲット 12回</td></tr> <tr> <td>延べ観衆</td><td>200名以上、ターゲット 400名</td></tr> <tr> <td>公演後のアンケート</td><td>よかった70%以上</td></tr> <tr> <td rowspan="2">② 一般劇場公演</td><td>公演回数</td><td>1回</td></tr> <tr> <td>延べ観衆</td><td>100名以上</td></tr> <tr> <td>③ 新プログラムと脚本を作成する</td><td>脚本作成</td><td>1本</td></tr> <tr> <td>④ 練習を継続的に行う</td><td>練習回数</td><td>12回</td></tr> </tbody> </table>	事業の目標	評価対象	数値目標 (2021年度)	① 高齢者福祉施設公演	公演回数	10回以上、ターゲット 12回	延べ観衆	200名以上、ターゲット 400名	公演後のアンケート	よかった70%以上	② 一般劇場公演	公演回数	1回	延べ観衆	100名以上	③ 新プログラムと脚本を作成する	脚本作成	1本	④ 練習を継続的に行う	練習回数	12回												
事業の目標	評価対象	数値目標 (2021年度)																																
① 高齢者福祉施設公演	公演回数	10回以上、ターゲット 12回																																
	延べ観衆	200名以上、ターゲット 400名																																
	公演後のアンケート	よかった70%以上																																
② 一般劇場公演	公演回数	1回																																
	延べ観衆	100名以上																																
③ 新プログラムと脚本を作成する	脚本作成	1本																																
④ 練習を継続的に行う	練習回数	12回																																
今後の展望	<ol style="list-style-type: none"> 多くの福祉高齢者施設で、本笑劇の公演が定着する。 そして、多くの施設利用者が、定例化した公演を心待ち頂けるまでにする。 笑劇プログラムを数多く所有して、演じられるようにする。 今回の新企画の一般公演が定着する。 笑劇以外の出し物・イベントを数多く開発する。 高齢者福祉施設以外のボランティア団体での公演を行う。 																																	

(第6条関係)

事業の予算概要

【収入】※ 事業についての補足書類は添付できません。

(単位：円)

科目		金額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 41,000	対象事業費の一部及び対象外経費を団体の会計より拠出
	事業収入	¥ 10,000	施設よりの謝礼金 ¥5,000円×2回
	自己資金の合計額 (A)	¥ 51,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 300,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 351,000	

【支出】

科目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 60,000	公演 コーラス バカ面師匠 30,000円*2グループ
	消耗品費	¥ 45,000	大小舞台道具製作費
		¥ 20,000	舞台衣装代
		¥ 10,000	プリンターインク代 台本、總會資料、案内書、他
		¥ 6,000	文具費 シナリオ制作用紙代 他
		¥ 4,000	演目音源代 200円*10曲 500円*4曲
		¥ 6,000	ハルンアート、ハルン代 500円*12回
	運搬費	¥ 36,000	施設までの大道具運搬費 3,000円*12回
	賃借料	¥ 6,000	定例会・練習の会場費 500円*12回
		¥ 63,000	アンプ内蔵スピーカー付き ワイヤレスマイク リース代 7,000円*9回
		¥ 30,000	公演 市民劇場平日ホールの賃借料
	使用料	¥ 30,000	公演 照明 音響 操作スタッフ人件費含む
	印刷費	¥ 20,000	公演ポスター 150枚 パンフレット2,000枚
	通信費	¥ 5,000	アンケート 124円*10枚 公演ポスター、パンフレット施設に郵送
	対象経費の合計 (D)	¥ 341,000	
	その他経費	雑費	¥ 10,000
その他経費の合計 (E)		¥ 10,000	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 351,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。

市民活動助成

事業番号 26

ステップアップ助成

外国人の子どものための新教室設立事業

認定 NPO 法人外国人の子どものための勉強会

事業計画書

事業名	外国人の子どものための新教室設立事業
団体名	認定NPO 法人外国人の子どものための勉強会

<p>事業概要：</p> <p>松戸市の外国人の子どもたちの支援要請の増加に応えるため、新教室設立に向けて</p> <p>1. 新教室を開設してトライアル授業を実施</p> <p>2. 新規スタッフの養成講座を実施 3. 現スタッフの指導力強化研修を実施</p>	
<p>取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）</p>	<p>松戸市内では外国人在住人口が毎年増加しており今後も外国人労働者受け入れ拡大に伴いさらに増加していくことが見込まれる。これに伴い就学児童への日本語・学習支援のニーズが急増している。</p> <p>外国人の子どもに対する日本語教育は現在学校で行われているが十分理解出来ず授業についていけない子供たちは数多くおり、この支援活動が求められている。</p>
<p>事業の目的</p>	<p>現在当会ではこの様な子供たちに対して文化ホール教室及び常盤平教室の二拠点で学習支援を行っているが増え続けるニーズに現状の体制では限界が来ており、当会の受け皿を拡大し体制強化は急務となっている。特に教室のない北部地区のニーズは今後も増え続ける事が見込まれる。この課題の解決策として来年度の助成金を活用して新松戸に教室を設け、現スタッフ及び新スタッフによるトライアル授業を実施。当会の指導モデルを確立し、新たな拠点となる新松戸教室の正式な開設を目指す。</p>
<p>事業内容</p>	<p>1. 現スタッフの指導力強化研修（新教室スタッフ指導）</p> <p>外部講師による講習</p> <p>対象：現会員スタッフ及び新スタッフ（令和2年度入会者）</p> <p>目的：日本語教育に特化した研修を行う（指導内容の格差是正）</p> <p>現スタッフは経験幅が大きく指導方法、使用教材も個人差がある。学習言語、日本語能力に差のある各生徒への対応力強化を図り、当会全体の指導力アップを目指す。</p> <p>2. 新スタッフの養成講座の実施</p> <p>外部講師及び現スタッフによる講習</p> <p>対象：新入会予定者（新教室担当及び現教室への補充）</p> <p>当会の活動内容、方針、理念の基本知識などの講習と実体験として、現教室での実習を行う。講師は外部講師と会員講師が勤める。</p> <p>3. 新松戸教室の設置と授業</p> <p>1) 候補は新松戸駅近辺の公共または民間施設。</p> <p>2) トライアル授業を新松戸教室設立への助走とする。</p> <p>3) 外国人への広報活動として次年度からの生徒を確保する</p> <p>4) 対象は中学生として期間中随時参加できる。</p> <p>5) スタッフ・生徒募集はHP、広報、口コミなどの多種媒体を利用</p> <p>6) 適正な共通教材を使用し当会の指導方法を確立する。</p>

スケジュール		
	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4月	新スタッフ、生徒募集開始	広報、自治体、ホームページ 国際交流協会他を利用
5月	スタッフ研修会（外部講師）	文化ホール
6月	新スタッフ募集の締め切り	
7月	第1回新スタッフ養成講座 （外部講師、現スタッフ）	新松戸地区の施設又は、 松戸文化ホール他
8月	第2回新スタッフ養成講座 （外部講師）	新松戸地区の施設又は、 松戸文化ホール他
9月	新スタッフ実体験 2回 （現スタッフ）	常盤平（木曜教室）、 文化ホール（土曜教室）
10月	新松戸仮教室開始 毎週 17時-19時 4回	新松戸地区の公共又は 民間施設
11月	新松戸仮教室 毎週 17時-19時 4回	新松戸地区の公共又は 民間施設
12月	新松戸仮教室 毎週 17時-19時 4回	新松戸地区の公共又は 民間施設
1月	新松戸仮教室 毎週 17時-19時 4回	新松戸地区の公共又は 民間施設
2月	新松戸仮教室 毎週 17時-19時 4回	新松戸地区の公共又は 民間施設
3月	新松戸仮教室 毎週 17時-19時 4回	新松戸地区の公共又は 民間施設
既存の事業から ステップアップ する部分 （ステップアッ プ助成のみ）	本事業を通じて ① 現教室の指導方法の改善と確立、各スタッフの指導能力向上 ② 新教室及び現教室へのスタッフの補強と増強 ③ 指導効果をもたらす教材の選別と確保 ④ 松戸市を網羅するネットワーク作りへの第一ステップ	
事業の目標	新松戸仮教室でのトライアル授業から本教室への基礎作りと既存教室への 指導改善フィードバック 新教室及び現教補完スタッフ養成講座受け入れ人数： 10名 新教室受入れ生徒数：10-20名	
今後の展望	1. 2021年度4月に本教室を開設しこれをモデルとして将来は 市内の必要な地域に近くて便利な教室を設け、新たな人材を指導スタッ フとして養成し活躍を促す。 2. 松戸市に住む外国人家族の安心と安定した生活の下、子どもたちが 将来日本の社会で貢献できる人材となるよう、支援活動を継続する。	

(第6条関係)

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

科目		金額	積算内訳
団体	当勉強会からの拠出金	¥ 55,600	事業費の一部を団体の会計より拠出
	生徒の授業参加料	¥ 120,000	¥500/回・人 24回 10人分
	自己資金の合計額 (A)	¥ 175,600	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 300,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 475,600	

【支出】

科目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 90,000	30,000円/回×3回 研修会講師 (大学教授等外部専門家)
	使用料及び賃借料	¥ 64,800	研修会場費800円/時間 3時間 3回7200円 新松戸仮教室 10月から3月まで 計24回 800円/h×3h×24回 57,600円
	消耗品費	¥ 144,000	授業用：1) 日本語学級 I, II、2) 外国人のこどものための漢字300 3) かんじだいすき I, II、4) 中学生の日本語など 新教材選定プロジェクトチームにより選定 合計8種類平均単価1800円 各10冊計80冊
	消耗品費	¥ 13,000	新教室使用コピー用紙、インク、その他文房具
	通信運搬費	¥ 10,900	郵便代 (広報以外のご案内DM、関係NPO、自治会その他) 切手94円100枚 封筒100枚
	食糧費	¥ 900	講師飲み物2本 300円 3人分
	印刷製本費	¥ 32,000	募集用チラシ印刷 200枚カラー 10円×200枚 2000円 インターネットダウンロード教材製本；東京都教育委員会「楽しい学校」新スタッフ用指導マニュアルなど 1000円×30冊
対象経費の合計 (D)		¥ 355,600	
その他経費	会員交通費 日当	¥ 120,000	教室指導スタッフ日当500円交通費500円 計24回×5人
	その他経費の合計 (E)	¥ 120,000	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 475,600	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が、対象となる経費 (D) 欄の90%以内であること。
- 2 自己資金 (A) 欄が、「対象経費 (D) 欄の10%以上」であること。
- 3 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。
- 4 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。

